

[第1号議案]

## 1-1. 2015 年度事業報告書

1. 概況：重点活動
  2. 会員の異動状況
  3. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
  4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）
  5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）
  6. 実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）
  7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）
  8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）
  9. 実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）
  10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）
  11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款4条1項6号）
  12. 法人運営
- 付1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
- 付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧
- 付3. 刊行物（会誌・論文誌・図書等）一覧
- 付4. 国際会議一覧
- 付5. 表彰等
- その他・附属明細書

# 2015 年度 事業報告

## 1. 概況および重点活動

少子高齢化、IT 技術のコモディティ化、グローバル競争の激化などの流れの中で正会員数や収入の継続的減少が続く一方、ICT の急速な進化が社会に大きなインパクトを与えるようになっており、本学会の果たすべき役割はますます広がっている。会長交代の年度となる本年度はこれまで推進してきた学会の抜本的改革を継続しつつ、長期的視点に立って安定した学会運営を実現するための施策の検討に取り組んだ。その結果、今後の会員獲得や学会価値向上に結びつく期待されるジュニア会員制度や認定情報技術者制度を立ち上げた。しかしながら正会員の減少傾向に歯止めをかけるには至らず、本年度の個人会員数は減少となった。この結果を受け、会員数減の要因分析・中長期計画の具体化・学会システムの刷新ロードマップの策定などが進みつつある。また、調査研究活動、学会誌の発行、論文誌編集活動、学術講習会の開催、標準化活動においても、新たな取り組みに挑戦しつつ、例年通りの成果を上げている。財務的には、いくつかの新たな取り組みを行ったが、種々のコスト削減の施策を行い、当年度黒字を達成した。

特筆すべき改革や成果としては、下記のものあげられる。

学生無料トライアル制度を発展させ、小学生から大学 3 年生までを対象としたジュニア会員制度を開始した。ジュニア会員数は 2016 年 3 月末現在で 668 名にのぼり、うち小中高生は 182 名を占めている。

- 実務家、IT プロフェッショナル向け新サービスである認定情報技術者制度（CITP）において個人認証では新たに 243 名（個人からの登録 13 名、認定企業からの登録 230 名）の認定情報処理技術者が誕生した。また企業認定の本運用も開始され、昨年度認定された 5 社に加えて今年度は新たに 2 社の社内資格制度を審査中である。
- 長期戦略理事が中心となり、2 年の理事任期を超えた中長期戦略の具体化が開始された。各分野において目標、指標、計画を具体化するという形でブレークダウンが進んでいる。
- 女性会員増を目指し、まず女性理事増を実現するための取り組みを行った。会誌編集委員会女子部でも、学会の理事会・委員会の取材記事を掲載し、女性の視点から学会を紹介する取り組みを進めた。女性会員の活躍を支援する「Info-WorkPlace 委員会」を理事会の下に発足させた。
- 新世代企画委員会における若手の活発な取り組みを続け、ニコニコ動画との連携や全国大会での「IPSJ-ONE」を継続するほか、学会イベント受付のオンライン化の試行を行った。また、ニコニコとの連携の第二弾としてニコニコ静画での学会コンテンツ（論文と会誌の記事）の販売を開始した。
- 学会情報システムの刷新に向けた現状調査を実施するとともに、イベント・シンポジウム・支部・研究会のシステムの統合も含めたロードマップを策定した。
- 会員数の現状を詳細分析し、年齢別・産学別の状況を明らかにするとともに今後の推移をシミュレーションした。特に減少傾向が著しい産業界に属する正会員への学会価値向上を目指した検討を開始し、学会説明資料の作成や、支部も交えた検討を行った。
- 正会員の減少傾向や今後の増税等の影響を考慮すると、継続的な学会運営と財務基盤の安定のためには 27 年間据え置かれてきた年会費の見直しが必要になると判断し、年会費改訂の検討に着手した。

この他にも、グローバル化を目指した取り組み、査読システムのリニューアル、電子図書館の企業向けサイトライセンスサービスの開始、国の政策や方針に対する活発なパブリックコメントの発信、国内外学会との連携などで多くの成果が出始めている。

## 1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるために、学会としてのトラディショナルな活動は今までどおり大切にしつつ、新しいアイデアを積極的に取り入れて、学会を柔軟に改革できる運営体制の整備として下記の施策を進めた。

- ① 若い世代の柔軟な発想を学会運営に取り込むべく、「新世代理事」を中心とした新世代企画委員会活動の活性化を推進した。
- ② 「長期戦略理事」を中心に、学会活動の拡大（会員増）、経営（財務）基盤の安定という2つの大きな目標の観点から中長期戦略の検討をすすめた。
- ③ 第三者機関であるアドバイザリボードからの提言を適宜諸事業へ反映した。
- ④ 女性が活躍できる学会を目指し、「Info-WorkPlace 委員会」を立ち上げた。引き続き、女性会員のネットワーク強化、女性を呼び込むためのイベントなど検討を進めていく。
- ⑤ 財務状況の見える化を図り、各事業や情報基盤整備の投資効率を意識した運営の検討をすすめた。

## 1.2 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

- ① 新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」活動を推進し、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む活動を推進した。
- ② 2012年度に導入した「学生無料トライアル会員制度（試行）」を拡充し、小学生から大学学部3年生までがオープンに入会申込できる「ジュニア会員制度（試行）」を実施し若い世代の入会を促進した。本制度は2016年度より本格運用する。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者のためのイベントを企画開催した。また、学生や若手を対象とした賞を授与した。

## 1.3 調査研究活動ならびに提言活動の推進

- ① 学会のコアの活動として、研究会による諸活動を推進した。コンピュータサイエンス領域、情報環境領域、メディア知能情報領域の3領域に分けて、領域委員会を3回ずつ開催し、研究会間での情報交換を促した。
- ② 調査研究運営委員会、政策提言委員会、若手研究者の会が連携し、国の政策および方針に関する「世界最先端IT国家創造宣言」、「情報セキュリティ管理基準（改正案）」などに関するパブリックコメント募集に対して、各専門の研究分野と連携して積極的な提言活動を行った。
- ③ 個々の研究会活動を超えて、領域または調査研究全体による活動を支援するために、調査研究活動の積立資金よりプロジェクト（期間2015年11月1日～2016年10月31日）を募集し、国際会議支援、女性研究者支援などの6件（総額122万円）を採択し支援することとした。
- ④ 複数の研究会の共催による「DICOMOシンポジウム」、「Annual Meeting on Advanced Computing System and Infrastructure (ACSI)」、「インタラクション」などを開催した。

## 1.4 グローバル化

- ① 英文論文誌 Journal of Information Processing（以下、JIP）のインパクトファクタ取得について、再申請に向けて諸対応を検討、促進した。トランザクション CVA についてはインパクトファクタの取得の申請手続きを2014年度に行い今年夏頃（Late Summer）には結果がでる予定。
- ② 査読プロセスをグローバルスタンダードに合致させつつ国際会議連携などの自由度を持つものにする必要性と、それを支える査読管理システムの重要性を踏まえ、従来の独自システム PRMS から国際的に広く使われている商用査読管理システム ScholarOne Manuscripts に移行した。
- ③ 研究会活動を中心に、国際会議の主催や共催を推進した。情報環境領域プロジェクトとして、ACM CHI への参加費・旅費の援助を行った。

- ④ IEEE や ACM のようなグローバルトップの国際学会を参考にしつつ、これらとの連携も含めた学会のグローバル運営戦略を検討した。
- ⑤ アジアの関連学会である中国 CCF (China Computer Federation) , 韓国 KIISE (Korean Institute of Information Scientists and Engineers) との中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。

### 1.5 実務家・ITプロフェッショナル向け活動の強化

- ① 高度IT人材の資格制度である「認定情報技術者 (Certified IT Professional : 略称 CITP) 制度」について、企業の社内資格制度を対象とする認証審査 (認定情報技術者 (企業認定) 制度) の本運用を開始した。本年度の新たな登録者は243名 (個人からの登録13名, 認定企業からの登録230名), 累計では企業認定5社とCITP保持者295名となった。
- ② ソフトウェアジャパン, デジタルプラクティス, 連続セミナー・短期集中セミナー, ITフォーラムなど, 各種の実務家・ITプロフェッショナル向け活動を通じて集客に貢献した。
- ③ 情報処理推進機構 (IPA), 情報サービス産業協会 (JISA), 日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS), 電子情報技術産業協会 (JEITA), 科学技術振興機構 (JST), 先端 IT 活用推進コンソーシアム (AITC) などの実務家・ITプロフェッショナルを対象とする団体との連携をさらに深め, 共同イベントの開催などを推進した。

### 1.6 教育活動の充実

初等中等教育, 専門学校そして大学などにおける情報教育, および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて, 以下の施策を実施した。

- ① 情報教育カリキュラムの策定
- ② アクレディテーション (教育機関における技術者教育プログラムの認定, JABEE からの委託)
- ③ 高校教科「情報」の教員免許更新講習会の開催
- ④ 大学入試における「情報」科目提言, 大学情報入試全国模擬試験実施
- ⑤ 教育シンポジウム・コンテストの運営と後援

### 1.7 会員サービスおよび広報の充実

- ① オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進, 電子図書館のサイトライセンスサービス, 会誌並びにデジタルプラクティスの App Store 掲載など, 新しいサービス提供形態を推進した。
- ② 昨年度 4 月より開始した大学向けサイトライセンスサービスに引き続き, 今年度 4 月からは企業向けサイトライセンスサービスも開始し 50 機関 (43 校, 7 社) へのサービス提供を行った。
- ③ シニア会員制度を継続して行い, 今年度は 94 名のシニア会員を登録した。

### 1.8 学会システムの拡充

- ① 外部へのアウトソースを含めた学会システム全体の俯瞰図および一覧表を作成し, 今後の学会システムの開発ロードマップを策定した。
- ② ハードウェア老朽化対策として, マネジメントシステムを仮想化した。
- ③ マネジメントシステムにジュニア会員制度対応の機能追加を行った。
- ④ 研究会および支部システムの集約に向け, 関係者へのヒアリングを実施し, これらの集約に向けた共通基盤システムの試行を開始した。
- ⑤ 新世代企画委員会と連携し, イベント・シンポジウム等受付システムのオンライン化を試行した。

## 2. 会員の異動状況

会員種別	会員数		増減数 ①-②	備考：2015年度の異動内訳				
	① 2015 年度末	② 2014 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	37	36	1	2	正会員から異動	1		
正会員	15,699	16,111	-412	491 694	学生会員から異動	1,120 2	名誉会員に異動	475
学生会員	2,695	3,477 内トライアル 533	-782	1,598		1,173 694 497	正会員に異動 ジュニアに異動	16
ジュニア会員	668	0	668	639 497	学生トライアルからの異動	468		
個人会員 計	19,099	19,624	-525	3,921		3,955		491
賛助会員 (口数)	220 (527)	223 (510)	-3 (17)	8 (44)		11 (27)		

\*2015年度期末正会員数には終身会員 504名を含む。

\*2014年度期末のジュニア会員相当数は、学生会員の内数(拠点校学生無料トライアル(旧制度)適用数)。2015年度よりジュニア会員に制度変更。

## 3. 会議等に関する事項(総会、理事会、各種委員会)

総会、理事会をはじめ、法人運営、調査研究活動、人材育成活動、事業活動、機関誌/出版活動、標準化活動、国際活動に関する各種委員会を開催した。特に、総会においては普段交流の少ない賛助会員にも学会活動に親んでもらい、交流を深めることを目的として講演会と交流会を実施、またエニグマ改良機 NEMA の動態展示も行った。詳細は付録1(p.18~p.32)に掲載する。

## 4. 実施事業1: 調査研究活動(定款第4条1項1号および2号)

### 4.1 研究発表会、シンポジウム・講習会等 [所掌: 調査研究運営委員会および各領域委員会]

39研究会, 3研究グループにより活動し, 研究発表会(161回)およびシンポジウム等(23回)を開催した。詳細は付録2(p.33~p.39)に掲載する。

※前年度参考: 38研究会, 2研究グループ, 研究発表会155回, シンポジウム22回

#### [1] コンピュータサイエンス領域

10研究会により, 研究発表会(44回), シンポジウム等(8回)を行った。それぞれの研究会が積極的な活動を行っているが, 中でも特記事項は次の通りである。

- ① 3研究会\*が合同で, 132名の参加者を集め「Annual Meeting on Advanced Computing System and Infrastructure (ACSI2016)(2016年1月18日~20日, 九州大学医学部百年講堂)」を開催した。

※システムソフトウェアとオペレーティングシステム (OS), ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC), プログラミング (PRO) 各研究会

- ② 優秀な若手会員を顕彰するため、2015年度コンピュータサイエンス領域奨励賞を17名に授与した。

## [2] 情報環境領域

17研究会により、研究発表会 (68回), シンポジウム等 (10回) を行った。特記事項は次の通りである。

- ① 領域全体の活動として、領域共通の積立金を活用したプロジェクトを募集し、学生プログラムコンテスト、国際会議支援、女性研究者支援などの6件のプロジェクト (総額122万円) を支援することとした。昨年度採用したプロジェクトの一部は成果報告を行い、領域の活性化に貢献したことを確認した。
- ② 10研究会\*が合同で、ネットワークに関する研究分野を対象に、研究者間の深いディスカッションと交流の場となるよう合宿形式による「DICOM02015シンポジウム (2015年7月8日～10日, 岩手)」を開催した。参加者は425名であった。

※マルチメディア通信と分散処理 (DPS), グループウェアとネットワークサービス (GN), モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム (MBL), コンピュータセキュリティ (CSEC), 高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS), ユビキタスコンピューティングシステム (UBI), インターネットと運用技術 (IOT), コンシューマ・デバイス&システム (CDS), セキュリティ心理学とトラスト (SPT), デジタルコンテンツクリエイション (DCC) 各研究会

- ③ 5研究会\*が合同で「インタラクション2016シンポジウム (2016年3月2日～4日, 科学技術館)」を開催した。実システムのデモを通じて発表者と参加者との双方向的なコミュニケーションを重視したインタラクティブ発表などは毎年好評を博し、今回も750名を超える参加者を得て盛会であった。学生会員は参加費無料とすることで会員増にも貢献した。

※ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI), グループウェアとネットワークサービス (GN), ユビキタスコンピューティングシステム (UBI), デジタルコンテンツクリエイション (DCC), エンタテインメントコンピューティング (EC) 各研究会

- ④ グラフィクスとCAD研究会 (CG) が2016年度より研究会名称をコンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究会 (CG) に改定することとした。

## [3] メディア知能情報領域

12研究会, 3研究グループにより、研究発表会 (49回), シンポジウム等 (5回) を行った。

- ① ゲーム開発者イベント「CEDEC2015 (Computer Entertainment Developers Conference ; 8月26日～28日 パシフィコ横浜)」に連携して、音楽情報科学研究会がパネルディスカッションを実施した。
- ② 複数研究会でニコニコ生放送等にて研究発表会の動画中継を行った。
- ③ 音楽情報科学研究会を中心に、情報学広場の論文にビデオ動画や音素材等のマルチメディアコンテンツを掲載できるよう検討し、論文誌ジャーナル5月号で掲載予定。
- ④ アクセシビリティ研究会 (AAC) の新設を承認した。

## 4.2 その他

### (1) 表彰

優れた研究発表および業績等に対して、山下記念研究賞、長尾真記念特別賞、喜安記念業績賞、若手奨励賞を贈呈した。なお、長尾真記念特別賞、喜安記念業績賞は今年度の表彰分をもってご寄贈頂いた資金を使い切り、次年度以降、長尾真記念特別賞については後継の賞を検討し、喜安記念業績賞は名称を従来の業績賞に戻し継続する。付録5 (p. 46～p. 48) に掲載する。

## 5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

初等中等教育を含む情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて，以下の施策を実施した。

### 5.1 情報教育カリキュラムの策定 [所掌：情報処理教育委員会]

#### (1) 現行カリキュラム標準（J07）のフォローアップ

現行のカリキュラム標準 J07 の普及・改訂，教科書など教材の整備・提供・普及などを引き続き行い，その中で浮かび上がった課題やその対策をふまえて次期カリキュラム標準の検討に入った。

#### (2) 次期カリキュラム標準 J17 の策定にむけた作業

次期カリキュラム標準 J17 の策定にむけて，CS2013 や IS2010 などを参照しながら，ワーキンググループを含めて検討作業を開始した。上記に関連して，日本学術会議の「情報学分野の参照基準」の策定に協力した。

#### (3) 初等中等教育での情報教育支援

国の情報教育の方向及び内容に関して，他学協会とも連携して様々な提言を行うとともに，関係者との情報・意見交換を行った。初中等段階における情報教育のカリキュラム体系を提案し，本会の論文誌で掲載及び IFIP WCC2015 で発表を行った。また，「会員の力を社会につなげる」研究グループ(SSR)と連携して，初等中等教育現場の支援を行った。

### 5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定） [所掌：情報処理教育委員会]

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため，日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を継続した。関連して，認定校・受審予定校のコミュニティの育成，専門職大学院認証評価などの活動支援を行った。また，JABEEに協力して情報専門系課程教育の質保証に努め，ソウル協定による国際水準を目指して教育改善を推進した。

### 5.3 認定情報技術者制度 [所掌：資格制度運営委員会，個人認証審査委員会，企業認証審査委員会]

高度 IT 人材資格制度「認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度」の個人認証については，2014 年度に開始した本格運用を引き続き進めた。資格更新に必要な CPD についても検討を進めた。企業認定については，2014 年度に行った試行に基づいて本格運用を開始した。本年度の新たな登録者は 243 名（個人からの登録 13 名，認定企業からの登録 230 名），累計では企業認定 5 社と CITP 保持者 295 名となった。また，技術士会等関連組織との連携強化を行った。

### 5.4 教員免許更新講習の開催 [所掌：情報処理教育委員会]

2014 年度に開始した高校の教科「情報」に関する教員免許更新講習を引き続き実施した。8 月の東京大学に加えて，12 月に京都大学でも開催した。昨年度に比べて参加者数が大幅に増加した（8 月延べ 54 名，12 月延べ 40 名）。本会が講習を実施することで，教科「情報」に関する免許更新講習不足を補い，高校の情報科教員の養成を支援することができた。

### 5.5 その他 [所掌：情報処理教育委員会]

#### (1) 大学入試科目に「情報」を導入するための活動

各大学における入試科目に「情報」の採用を推進する情報入試 WG および情報入試研究会，「情報」を入試科目として採用している大学，「情報」の教員等と緊密に連携して，大学情報入試の全国規模模擬試験を 2 月に実施した。

## (2) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

教育に関するシンポジウムならびにコンテストを企画運営した。高校教科「情報」に関するシンポジウムを5月に大阪、10月に東京で開催した。ともに多数（5月67名；10月91名）の参加者があった。また、若い世代への本会のプレゼンスの向上をめざして、大学生、高校生等を対象とするコンテストの後援や表彰活動を多数実施した。

## (3) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め、初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために、学会誌に「ぺた語義」などの教育関連連載記事を掲載した。また本会の元会長であり、高大接続システム改革会議の座長である安西祐一郎先生に対するインタビューを行い、学会誌に掲載した。

---

## 6. 実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）

---

※各開催状況の詳細は付録2（p.39～p.41）に掲載する。

### 6.1 全国大会／FIT

#### (1) 第78回全国大会 [所掌：全国大会組織委員会]

第78回全国大会を2016年3月10～12日に慶應義塾大学矢上キャンパスで開催した。本大会では、前回と同様に通常の一般セッション、学生セッションに加えて大会招待講演企画、大会イベント企画、展示会などのイベントを開催し、「大会イベント企画限定聴講参加（参加費無料）」の参加枠を設けた。

また、昨年に引き続き、ニコニコ動画によるメイン会場のライブ配信（来場者数：13.5万人）や、「IPJSJ-ONE」を行った。また、参加者サービスの向上を目指して託児所の設置、視覚障害者向け情報保障（手話と要約筆記（字幕・ノートテイク））を実施した。さらに、昨年同様、非会員で全国大会に申込みをした方の中で希望者には1年間の無料会員サービス提供を行った。講演件数は1,456件（一般セッション244件、学生セッション1,212件）、総参加者数は3,220名であった。

※前年度参考：講演件数1,401件、総参加者数3,610名

全国大会の併設イベントとして学会主催のリクルートイベント「情報系エンジニア キャリア研究セッション」を（株）ジースタイラスと共同で企画実施した。参加者は70名、出展19社であった。

#### (2) 第14回情報科学技術フォーラム（FIT2015） [所掌：FIT運営委員会]

FIT2015（第14回情報科学技術フォーラム）を、2015年9月15～17日に愛媛大学 城北キャンパスにおいて開催した。講演件数は590件、総参加者数は1,206名であった。船井業績賞受賞者 NVIDIA 社上級副社長 William Dally 氏による受賞記念講演を実施した。また、イベント企画セッション「災害コミュニケーションとその課題」を実施した。

※前年度参考：講演件数501件、総参加者数1,223名

#### (3) 表彰 [所掌：全国大会組織委員会]

優れた発表を顕彰するため、全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈した。詳細は付録5（p.48）に掲載する。

### 6.2 セミナー／ソフトウェアジャパン／プログラミング・シンポジウム

#### (1) 連続セミナー2015 [所掌：セミナー推進委員会]

「イノベーション最前線：押し寄せる変革の本質を探る」を全体テーマとし、年度内に全6回開催し、

本会場（東京）延べ 608 名，遠隔会場（大阪）延べ 165 名の多数の参加があった。

※前年度参考：全 6 回，東京／大阪延べ参加者数 528 名

(2) 短期集中セミナー [所掌：セミナー推進委員会]

年度内に，次の短期集中セミナーを開催した。

「基礎からわかる 画像・音声符号化伝送技術入門」（9 月）参加者：46 名

「Exciting Coding! 2015～IT スペシャリストが語る イノベーションの面白さ～」（12 月）

参加者：53 名

(3) ソフトウェアジャパン 2016 [所掌：IT フォーラム推進委員会]

「人工知能が 2020 年を変える」を一橋大学 一橋講堂会議室にて開催した。

昨年と同様に，テーマにもとづいた「メインセッション（午後開催）」を有料化，IT フォーラムならびに関連団体がそれぞれに企画をする「IT フォーラムセッション（午前開催）」は無料，という形で一日を午前と午後とに分けて実施した。

総参加者数 842 名（メインセッション 410 名，IT フォーラムセッション 745 名，重複含む）

スポンサー：9 口，サポーター：32 口，展示：2 口

※前年度参考：参加者数 459 名，スポンサー：8 口，サポーター：32 口，5 口

(4) プログラミング・シンポジウム [所掌：事業運営委員会]

年度内に 3 回（第 57 回プログラミング・シンポジウム，夏のプログラミング・シンポジウム，第 48 回情報科学若手の会）のシンポジウムを開催した。いずれも 2 泊 3 日の合宿形式で開催され，活発な議論が行われた。

6.3 IT フォーラム [所掌：IT フォーラム推進委員会]

① 2014 年度で活動を終了した IT ダイバーシティフォーラムの活動を引き継ぎ，更なる女性会員の活躍支援を目指して本年度は理事会直下の委員会として新たに「Info-WorkPlace 委員会（木塚委員長）」を立ち上げた。

② 高度 IT 人材育成フォーラムを終了し，認定情報技術者の交流と発展を目的とした CITP フォーラムを新設した（代表：平林元明）。また，IT 未来人材フォーラムも活動を終了した。勉強会間の交流促進を目的とした勉強会フォーラムを新設した（代表：河口信夫）。

③ ソフトウェアジャパン 2016 の IT フォーラムセッションにおいて，関連団体\*との連携イベントを推進した。

※情報処理推進機構（IPA），先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC），JST 科学技術振興機構（JST）

④ 実務家向け論文誌「デジタルプラクティス」と会誌「情報処理」との連動企画を実施した。

DP Vol.6 No.2 特集「教育と情報通信技術（ICT）」／会誌 56-5 特集「教育における ICT の活用」

6.4 コンピュータ将棋とトッププロ棋士との対局 [所掌：「あから」強化推進委員会]

① トップのプロ棋士とコンピュータ将棋との対戦の実現を目指してさまざまな活動を行ったが，残念ながら実現には至らなかった。

② コンピュータ将棋の現状の強さについて統計的にトッププロ棋士を超えたことを確認した。

③ トッププロ棋士に勝つコンピュータ将棋を作るというプロジェクトの最終目標は事実上達成されたと判断し，10 月にプロジェクトの終了宣言を学会 Web と学会誌上で行い委員会を解散することとした。

6.5 AI プログラミングコンテスト [所掌：プログラミングコンテスト委員会]

① 学生および若手技術者の育成を目的として，世界規模の対戦型プログラミングコンテスト「Samurai Coding2015-16」を開催した（オンライン予選 1 次募集，予選 2 次募集そして決勝戦）。オンライン

予選1次募集2月8日 AoE (日本時間 2月9日 20:59), オンライン予選2次募集2月22日 AoE (日本時間 2月23日 20:59) を締切としたオンライン予選には, 99チームの参加があった。

- ② 決勝戦には, 国際:5チーム, 国内:13チームの全18チーム23名が予選結果から選抜され, 2016年3月11日(金)に慶應義塾大学矢上キャンパスで第78回全国大会イベント企画として決勝戦を開催した。また決勝戦を全国大会参加者が自由に観覧できるようにすると同時に, 懇親会には予選敗退チームも招待し, 参加者およびスポンサーを含む関係者間の交流とプログラミング学習・スキル向上およびコンテストの取り組みの認知向上・広がりにも寄与するように努めた。

#### 6.6 各支部による支部連合大会, 講習会等の開催 [所掌:各支部]

支部連合大会, 講習会, 講演会, セミナー, 国際ワークショップ等, 各支部において活発に活動がなされた。詳細は, 付録2 (p.41) および付録5 (p.49~p.50) に掲載する。

---

## 7. 実施事業4: 会誌の刊行 (定款第4条1項1号および2号)

---

※発刊状況の詳細は付録3 (p.42) に掲載する。

### 7.1 会誌「情報処理」 [所掌:会誌編集委員会]

#### (1) コンテンツ

- ① 会誌「情報処理」第56巻5号から第57巻4号まで計12号(本文1,252ページ, 広告66ページ, 平均発行部数18,182部/号)を編集発行した。
- ② 塚本編集長のもと「読まれる学会誌」を目指して, 会員サービス, および会員増という観点から編集を行い, 時宜を得た特集, 連載, 単発記事が提供できるよう努めた。
- ③ 女性会員増への施策として女性編集委員による連載「会誌編集委員会女子部」の連載を継続した。また, 会員や非会員に学会の活動内容をより知ってもらうための企画として, 女子部が学会内組織の取材をする「女子部が行く!」の連載を開始した。
- ④ 学会Webとの連動企画として, 昨年に引き続き9月号「研究会推薦博士論文速報」では, 本誌に簡略版, Webにその詳細を掲載した。
- ⑤ 時事性・話題性の高い記事をスピーディに掲載する「特別解説」, 著名人による「巻頭コラム」, シニアコラム「IT好き放題」, 連載「古機巡礼/二進伝心」, コラム「ビブリオ・トークー 私のオススメ」, 教育コーナー「ぺた語義」を引き続き掲載し, 概ね好評を得た。
- ⑥ デジタルプラクティス22号 (Vol.6 No.2) 特集「教育と情報通信技術 (ICT)」と連動した特集「初等中等教育におけるICTの活用」を第56巻4号に掲載した
- ⑦ 会員に気軽に会誌を開いてもらうための試みとして, 連載漫画「IT日和」を開始した。
- ⑧ 会議レポートの掲載数を増やし, 会員へ国内外会議の周知, また積極的な参加を呼びかけた。
- ⑨ 第57巻3号に東日本大震災からの5年を振り返る特集「震災5年特別企画: 災害科学と情報技術」を掲載した。
- ⑩ 春休み特別企画として, 紙飛行機の型紙と関連する解説記事を掲載した。

#### (2) その他, 広報・宣伝の充実および編集体制の改善

- ① 冊子版に掲載された広告をWebカタログとして学会Web上に掲載するサービスを継続した。
- ② 学生向けの「就職情報」の掲載企業は18社であった。
- ③ メールニュースをより魅力的なものとするため, 昨年に引き続き「理事からのメッセージ」を掲載した。

- ④ App Store での会誌電子版の販売を継続した。また Fujisan にて特集別刷電子版の販売を開始した。
- ⑤ 全国大会において、会誌関連イベントを開催した。
- ⑥ 日経 BP 社との連携の一貫として、学会からのメッセージに企業の DM を同封した。
- ⑦ 各記事のページ数を減らし、モノクロでも分かりやすい記事を掲載することで、印刷コストの削減を図った。
- ⑧ 非会員へのビジビリティ向上を目的として、日経 BP 社と連携し、会誌の中から毎月 1 記事をピックアップして抜粋した記事を日経テクノロジーオンラインに掲載する試みをスタートした。
- ⑨ IPSJ メールニュースにて、会誌・論文誌の目次配信を開始した。また、ニコニコ動画での販売も開始した。

## 8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

※各発行状況の詳細は付録 3（p. 42～p. 44）に掲載する。

### 8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

#### (1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） [所掌：ジャーナル編集委員会]

##### ① 論文の充実（論文投稿数の増加に向けた取り組み）

論文誌（一般論文、特集号論文）の月刊体制を維持し、297 編（含 JIP preprint 93 編）が掲載された。招待論文を 7 編および特集号を 15 号発行した。ジャーナル/JIP 編集委員会幹事会が提案母体となる「学生・若手研究者論文特集号」を企画し、論文投稿を促進した。

##### ② 論文査読管理の改善

現行の査読管理システム PRMS の運用を見直し、商用システム ScholarOne Manuscripts への移行を実施した。また、査読の遅延に対する対応ルールを徹底し、論文審査期間の短縮を図った。あわせて、二重投稿、剽窃等の問題に対する対応を見直し、規定改正の準備を進めた。また、不採録論文に対する異議申し立て制度を新たに導入した。

##### ③ 電子化を有効活用した改善

マルチメディアファイル等を含む論文付録電子データの出版について検討し、学会の規程等を整備した。先行事例として「音楽情報処理技術の進歩とその拡がり」特集号において 2 編の論文を採録するとともに、本格的な運用開始に向けた投稿や出版フローの整備に着手した。また、ニコニコとの連携の第二弾としてニコニコ動画での特選論文の販売を開始した。

#### (2) 「Journal of Information Processing (JIP)」 [所掌：JIP 編集委員会]

年間論文採録数の目標 90 編に対して採録件数は 92 編を達成し、2015 年 1 月より季刊発行から隔月刊発行に変更し、さらに 2017 年 1 月号からの月刊化を目指すこととした。2010 年 8 月より継続していた JIP 掲載料無料キャンペーンを見直して、新たに割引キャンペーンを開始した。さらに、和英混載トランザクションで採録が決定した英語論文について、JIP 掲載論文のプレプリント等のアーカイブ版の出版フローを整理して業務の効率化を行った。また、優れた英語論文の投稿を喚起する施策の一つとして、推薦論文の英語化をサポートする制度を導入した。

#### (3) トランザクション（10 誌） [所掌：各トランザクション編集委員会]

研究会が編集した「情報処理学会論文誌（トランザクション）」10 誌を年度内に計 37 回発行した。トランザクションの採択件数は計 157 件となった。英文トランザクション CVA が申請中のインパクトファクタ取得について結果を待つとともに出版社をシュプリンガーに変更する。

(4) 実務活動の論文誌「情報処理学会デジタルプラクティス」〔所掌：デジタルプラクティス編集委員会〕

- ① 論文誌「デジタルプラクティス」通巻 22 号～25 号の特集号企画と編集，投稿論文の審査・共同推敲を行った（招待論文 19 編，解説論文 2 編，特集号投稿論文 4 編，一般投稿論文 8 編を掲載）。
- ② デジタルプラクティス（以下，本項では DP）著者に，より強い動機をもってクオリティの高い論文を執筆していただくために，DP アワードを学会の賞として格上げし，名称も「デジタルプラクティス論文賞」と改め，ソフトウェアジャパン 2016 にて授賞式を行った。
- ③ 3 月末に平田圭二編集委員長が退任し，4 月より吉野松樹氏が新編集委員長に就任した。
- ④ DP や昨年新設した DP レポートへの投稿を積極的に呼びかけた。DP への論文掲載は，CITP 自己研鑽活動の CPD ポイントになるため，認定情報技術者に DP 論文募集の案内を送った。また，今まで DP に寄稿や投稿をした方に DP レポートの案内を送り投稿を促した。
- ⑤ 投稿論文の査読シートの改善を行った。
- ⑥ 3 月全国大会で DP 企画セッション「オープン・サービス・イノベーション活用の秘訣は何か？」を開催した。

(5) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため，論文賞，デジタルプラクティス論文賞等を贈呈した。詳細は付録 5（p. 46, p. 50）に掲載する。

8.2 専門誌：教科書シリーズ 〔所掌：出版委員会〕

新しい体制で既企画のメンテナンスを中心に活動を行った。新刊を 1 冊，改訂 2 版を 3 冊刊行した。

8.3 歴史資料の保存・公開 〔所掌：歴史特別委員会，コンピュータ博物館小委員会〕

- ① 「情報処理技術遺産」10 件と分散コンピュータ博物館 1 件の関連調査と認定を行った（情報処理技術遺産累計：85 件，分散コンピュータ博物館累計：9 件）。詳細は付録 5（p. 50）に掲載する。
- ② 遺産の開発に深く関わった方に楯のレプリカを贈呈した（5 件）。
- ③ 「コンピュータ博物館」の充実を図った。  
（4 月～3 月のアクセス数 563, 639 件（日英あわせて），転載数 19 件）
- ④ オーラルヒストリー 4 件を会誌に掲載した。
- ⑤ 第 78 回全国大会で特別セッション「私の詩と真実」を開催した。
- ⑥ 歴史的価値のある機器の譲渡申込みへの対応など遺産の保存につながる活動を行った。

8.4 電子図書館事業の推進 〔所掌：デジタルコンテンツ事業検討委員会〕

- ① 企業向けサイトライセンスサービスを 2015 年 4 月より開始し，大学と合わせて 50 機関へのサービス提供を行った。
- ② ユーザ向けアクセス統計機能の充実を図った。
- ③ 研究会と連携し，マルチメディアコンテンツを含む論文公開に関する仕様の検討とマルチメディアコンテンツの著作権に関する規程類の整備を行った。

---

## 9. 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）

---

9.1 情報規格調査活動 〔所掌：情報規格調査会〕

(1) 国際標準化中心メンバーとしての貢献

昨年度から引き続き，メディア符号化（SC29），デジタル記録媒体（SC23），文字コード（SC2）など

の重点領域の委員会議長、幹事国などの国際役職引き受けを継続するとともに、国の代表として、JTC1総会（10月北京）に出席し、審議プロセス・組織の見直し、新規標準化領域などの議論に参加した。

- ① 今年度の引き受け件数は、議長3件（20SC委員会中）、セクレタリアート4件（20SC委員会中）で昨年と変化なし。その他、コンビーナ（各SC委員会傘下のWG主査）16件（112WG中、昨年比2件増）、プロジェクトエディタ107名（昨年より増減なし）と昨年同様に貢献した。
- ② 重要な標準化領域に対しては新たな会員の参加を促しつつ積極的に貢献している。新たに設立された作業グループJTC 1/WG 9 on Big DataおよびJTC 1/WG 10 on IoTに対応するため、国内に小委員会を立ち上げ、用語および参照アーキテクチャの規格開発に参画した。また、JTC 1における新規テーマを発掘する役割を担ったSWG on Planningに参加し、日本からの意見をインプットするとともに、日本の関係組織、賛助員企業等に情報の共有を図った。
- ③ 日本提案による国際標準化の推進としては、新業務項目（NP）の提案（承認済）3件、国際標準（IS）などの発行されたもの30件などである。
- ④ 国際会議の日本での開催：SC2総会&WGs、SC7/24WG、SC32/WG3、SC35総会&WG4と4件の国際会議を開催した。
- ⑤ 標準化の対象が社会システムなど上位のレイヤに移るトレンドの中、JTC 1が取り組むテーマがISO、IEC、ITU-Tと重複する傾向が進んでいる。対応する国内標準化団体が異なるため、連携を図って日本としての効率的な標準化活動を促進することが肝要となってきた。この目的のもと、まずはJTC 1と連携テーマがあるITU-Tへの国内対応委員会を設置している（一社）情報通信技術委員会（TTC）とMOUを締結し交流会を開催した。

## (2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

- ① 活動への参加者と費用負担に関して公平性を保持することを目指して、これまで費用負担なしに活動可能としていたエキスパート制度を見直しし、賛助員への参画か新設のアドバイザーに移行した。また、所属を持たずに個人として活動している人を、賛助員が委員に推薦できる制度を開始した。昨年度いっぱい、これまでの参画方法を許容し、今年度の制度開始までに不整合のないように調整を進めた。しかし、当初想定していなかった企業にもアドバイザー制度で参画を求める専門委員会があったため、今後、対象企業の制約について再検討する必要性を認識した。引き続き安定的な運営に努める。
- ② 国際標準化活動への参加・貢献の割合をできる限り維持することに努めた。363回の標準化国際会議への参加者は、延べ1,093人とほぼ昨年並みを維持した。
- ③ 今年度も引き続き、本部と情報規格調査会との連絡会を開催した。情報セキュリティの保持、著作権の問題、予算策定など、情報共有を図りつつ運営を推進した。

## (3) 広報活動とセミナーの実施

- ① 刊行物「情報技術標準NEWSLETTER」：季刊誌（年4回）および別冊（年1回）を発行した。
- ② 情報技術標準化フォーラム（2015年5月18日）：経済産業省 国際電気標準課 和泉章課長による「国際標準化の重要性とビジネスへの活用」と、産業技術総合研究所 村川 正宏 人工知能応用研究チーム チーム長による「ITで実現する社会インフラのスマートメンテナンス技術」の2件の講演を実施した。
- ③ SC29 画像・音声符号化伝送技術に関して有料セミナーを実施した。

## (4) 表彰

標準化関連活動への貢献を顕彰するため、標準化貢献賞等を贈呈した。詳細は付録5（p.51）に掲載する。

---

## 10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）

---

### 10.1 関連する海外学協会との連携・協力

#### (1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加 [所掌：IFIP委員会]

- ① IFIP 日本代表、各 TC 日本代表の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加  
IFIP 総会（10月8日～10日、大田（韓国））に村山 IFIP 日本代表(兼 IFIP Vice President)が参加した。
- ② 各 TC 日本代表が TC-meeting へ参加した。会誌（3月号）への活動報告、会議レポートの掲載のほか、メールニュース、Web を利用した情報発信を行った。
- ③ International Professional Practice Partnership (IFIP IP3) への参画（IP3は2015年10月に正式に IFIP の組織と承認された）
- ④ IFIP 役員会が2016年3月7日～9日に国立情報学研究所で開催され、この機会に IFIP 役員との情報交換ならびに交流会を実施した。
- ⑤ 第78回全国大会において IFIP 会長 Leon Strous 氏を招聘し招待講演を行った。  
演題「Looking beyond borders」

#### (2) IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① 2015年7月1日～5日に台湾にて開催された The 39th Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2015) への技術協力をを行った。
- ② 第78回全国大会において IEEE-CS 会長 Roger U. Fujii 氏を招聘し招待講演を行った。また、この機会に IEEE-CS と当学会の情報交換を行った。  
演題「How To Verify That Software and Systems Development Products Are Correct and Safe」
- ③ 新しいサービス提供などを含めた姉妹学会 MOU を更新した。

#### (3) 海外学協会との連携・協力

- ① China Computer Federation (CCF) との連携・協力
  - ・ China National Computer Congress (CNCC2015)において、喜連川前会長が招待講演を行った。  
演題「IPSJ and Big Data in Japan」
  - ・ 第78回全国大会において、CCF 会長 Wen GAO 氏を招聘し招待講演を行った。  
演題「Visual Search by CDVS」
  - ・ 中長期的な交流に向けて意見交換を行い、2015年5月1日から2018年4月30日までの協力協定（MOU）を結んだ。
  - ・ 12月に CCF CEO Zide Du 氏および事務局と本会役員、事務局で意見交換会を行い交流を深めた。
- ② 他の海外学会との協力関係の継続  
以下の海外学会との協力関係を継続するとともに、アジアの関連学会とは中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。
  - ・ Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)
  - ・ Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE)
  - ・ Association for Computing Machinery (ACM)
  - ・ Computer Society of India (CSI)
- ③ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

#### (4) 国際会議の開催（3件）

※開催状況の詳細は付録4（p. 45）に掲載する。

---

## 11. 1. その他：関連学協会等との連携および協力（定款4条1項6号）

---

### 11.1 関連学協会・日本学術会議

#### (1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

「WECC2015 世界工学会議（11月）」の開催協力、参加の他、会長懇談会への参加など、日本工学会に参加し、関連学協会の共通の問題について意見交換を行った。また、工学系6学会会長連携会議にも参画し、工学連携に取り組んだ。

#### (2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）」ほか、研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行った。

#### (3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として協力するとともに、若手研究者の会を通じて、日本学術会議の若手アカデミー委員会に参加した。なお、若手研究会者の会の代表者が河口信夫先生（名大）に交代した。

#### (4) 電子情報通信学会との連立開催（連催）に関する覚書

電子情報通信学会との本学会の研究会が合同で開催する研究会の形態について、著作権の扱いや当日用サイトでの論文公開などを定めた覚書を締結した。

### 11.2 会議の協賛後援等

#### (1) 国内会議の協賛・後援等

「JISA Digital Masters Forum 2015」（一般社団法人情報サービス産業協会主催、2015年11月27日開催）ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等116件（2016年3月現在）を行った。

#### (2) 国際会議の協賛・後援等

「第6回先端メカトロニクス国際会議」（一般社団法人日本機械学会主催、2015年12月5日～8日開催）ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等20件（2016年3月現在）を行った。

---

## 12. 法人運営

---

### 12.1 入会促進

#### (1) 新規会員の獲得と会員減の防止

会員減対策として以下の施策を実施した。正会員の減少は依然継続しており、ジュニア会員制度による入会も伸び悩み、今年度の個人会員合計は残念ながら525名の減少となった。

- ① ジュニア会員制度（試行）を推進し若い世代の入会を促進した。
- ② 各活動において学会の価値向上策に取り組むとともに、理事を中心に、新規会員の勧誘および退会防止に努めた。
- ③ 連続セミナー・ソフトウェアジャパンの開催、デジタルプラクティスのApp Storeへの掲載など実務家に向けた活動を推進した。また、関連イベントの非会員参加者が入会する際、連続セミナー、短期集中セミナーについては入会金を免除するよう対応し1名の入会があった。更に非会員での全国大会講演申込者、AIプログラミングコンテスト本戦出場者には、次年度会費免除特典付き入会の御案内をお送りし、34名の入会があった。

- ④ 会費滞納による資格喪失の防止策として、会費の口座引落、クレジットカード決済等を推進した。
- ⑤ 産業界に属する会員への学会価値向上に向けて検討を行った。

## (2) 学生会員ならびにジュニア会員の獲得と育成

- ① 学生無料トライアルから移行したジュニア会員制度（試行）を通じて若年層に学会活動を広く周知し、学生会員育成活動を推進した。
- ② 研究会ならびに支部の協力により新規学生会員の獲得活動を実施し、学生会員の正会員への移行・定着の施策として1研究会への無料登録を継続した。
- ③ 支部で実施しているイベントにおいてジュニア会員制度のPRを実施し、入会を促した。また、学生・若手向けセミナーの企画開催など、学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上に努めた。

## 12.2 政策提言活動の推進

情報処理に対する一般社会の価値認識を高めるとともに、学会の存在感の向上を図り、国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して政策提言活動の強化を図った。情報系の各種パブコメに対しても以下(2)のとおり4件の意見を提出した。

### (1) 若手研究者の会の運営

若手研究者の連携強化・活動の活性化、および日本学術会議の同様の活動の受皿となること等を目的として、若手研究者の会の活動を継続し、若手からの意見収集と運営への反映に努めた。

### (2) 情報系の各種パブコメへの積極的対応

2015年度中に次の意見を公開した。

- ・「世界最先端IT国家創造宣言」に対する意見（2015年5月）
- ・「情報通信審議会情報通信技術分科会技術戦略委員会 中間報告書（案）」に対する意見（2015年7月）
- ・「電気通信事業におけるサイバー攻撃への適正な対処の在り方に関する研究会 第二次とりまとめ（案）」に対する意見（2015年8月）
- ・「情報セキュリティ管理基準（改正案）」に対する意見（2015年8月）

## 12.3 震災復興関連の取り組み

第14回情報科学技術フォーラム（FIT2015）においてイベント企画セッション「災害コミュニケーションとその課題（9月、愛媛大学）」を開催した。また、会誌第57巻3号に東日本大震災からの5年を振り返る特集「震災5年特別企画：災害科学と情報技術」を掲載した。

## 12.4 運営体制の充実・改善等

### (1) 新世代発想の学会運営への取り込み

- ・学会イベントのニコニコ動画配信を推進し、新たな取組としてニコニコ静画での論文と会誌記事の販売を開始してプレス発表をした。
- ・第77回全国大会から開始したIPSJ-ONEを引き続き第78回全国大会で開催した。
- ・学会価値向上のために、ITフォーラムの下に、論文読み会などの資料共有を目的とした「勉強会フォーラム」を設立した。
- ・学会イベント受付のオンライン化の試行を行った。
- ・学会イベント支援として公式チャットシステムを導入して運用を開始した。
- ・ジュニア会員ページをより魅力的にリニューアルした。申し込みページを改訂し、ジュニア会員向けWebサイト紹介を掲載した。

## (2) 寄付の募集

個人及び企業の皆様に幅広く寄付の御願いをした。また、現金ではなくボランティアによる役務の提供を受けた。

## (3) 長期的ビジョンの継続体制の確立

長期戦略理事を中心に、学会の魅力・価値の向上を目指して中長期的な視点から中長期戦略の策定をすすめた。策定にあたっては、分野・項目毎の目標と指標を明示し、計画を具体化することに努めた。また、短期的には各事業の諸施策の着実な実施を推進した。

## (4) 中長期計画を踏まえた運営改善

「魅力ある学会」に向け、学会活動に関する中長期計画を踏まえつつ、第三者機関であるアドバイザーボードミーティングを2015年7月に開催し、ボードメンバーからの助言を実施事業の企画および運営の改善に役立てた。

## (5) 広報活動の推進・諸活動のデータ収集

- ① 学会 Web の充実の他、Facebook, Twitter, 日経 BP, 日経テクノロジーオンラインならびに App Store への会誌とデジタルプラクティスの掲載、情報処理学会公式ニコニコチャンネルなどソーシャルメディアを活用した積極的な広報活動を推進した。
- ② 各種行事等の場での入会促進および学会紹介、IPJSJ メールニュースの内容充実を図った。産業界の会員増に向けた説明資料の作成を行った。
- ③ 会員の入退会、大会・セミナー等への投稿・申込み状況、会誌等のモニター会員による評価など、関連データの収集・分析を継続し諸活動の評価・改善に努めた。また、年齢別の入退会状況の分析を行い、今後の会員数の推移をシミュレーションした。

## (6) 会員サービスの充実に向けた学会情報システムの見直し

今年度は、老朽化していたマネジメントシステムの延命策として仮想化を実施し、さらに、ジュニア会員制度実施に向けた機能拡張を優先して実施した。また、今後の会員サービス拡充に向けて、前記の課題を解消すべく、アウトソース部分や研究会・支部システムを含む学会システム全体像の俯瞰図と一覧表、および、今後2～3年間の開発ロードマップを策定した。

一方、イベント参加申込システム、論文査読システム、電子図書館システムを始め、アウトソースしているサブシステムと本部システムとの連携、あるいは、研究会システムや支部システムと本部システムとの連携が、人手と紙や物理媒体による業務フローに依存している事が判明した。また、これらの各サブシステムの開発や運用に要する予算管理が不十分であることも判明した。さらに、各サブシステムに散在する個人情報のセキュリティ管理なども見直しが必要であることが判明した。

CRM 基盤「INPACT (Investigate Personal Activity) システム」の実運用に向けては、課題も明確になり利用方法を継続検討する。

## (7) 2014 年度監事付帯意見への対応

2014 年度監事付帯意見（2015 年 6 月開催の第 600 回理事会に監事が提出）について、改善策の検討ならびに学会運営および中長期計画への反映などの対応を実施し、結果を 608 回理事会（2016 年 4 月）で報告した。監事付帯意見は、学会長期戦略の立案、学会の持続的発展を支える基盤の整備、会員増の取り組みの 3 項目から成り、全てに対し検討・対応を実施した。

## (8) 著作権関連 [所掌：著作権委員会]

電子付録データに関連する規程類の整備を行った。5 月以降、電子付録データ付論文の採録を開始予定。知的財産専門委員 17 名の推薦を行った。電子図書館に掲載中の論文に対し剽窃の指摘があり、著者に連絡のうえ訂正記事を掲載した。

(9) **マイナンバー制度への対応** [所掌：総務財務運営委員会]

2016年1月より利用が開始された「社会保障・税番号（マイナンバー）制度」に関する諸規程の整備等を行った。

(10) **参加しやすい総会を目指した取り組み** [所掌：総務財務運営委員会]

普段交流の少ない賛助会員にも学会活動に親んでもらうことを目指し、2015年6月の総会において産業界の注目が高いマイナンバー制度に関する講演会や交流会の実施、エニグマ改良機 NEMA の動態展示を行い26社のご参加を頂いた。また、歴代会長の懇親会を行い、学会に関する意見交換を行った。

## 12.5 その他表彰等

(1) **顕彰、名誉会員・フェローの選定など**

功績賞、学会活動貢献賞の贈呈のほか、フェロー認定、情報処理技術遺産認定を行った。詳細は付録5 (p. 46, p. 49) に掲載する。

(2) **事務局職員**

事務局常勤職員の年度末在籍者は30名（本部22名、規格8名、前年末は30名）である。また、現行の法令に求められる要件を充足する形に学会事務局就業規則の改訂を行った。

以上

## 付1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

### ■ 総 会

[2015年度定時総会の構成（定款・法人法上の社員）]

総代表会員数：125名

※総会成立定数：63名

\*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項	会議結果
2015年度定時総会 2015年6月3日  議長：喜連川優（会長） 出席：115名（内、委任状65名）	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>第1号議案：2014年度に係る報告の件 第2号議案：新名誉会員の件 第3号議案：定款の変更および一般規則の改訂の件 第4号議案：一部役員任期満了による新役員選任の件</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>第1号報告：2015年度事業計画および予算の件 第2号報告：会費滞納会員の取り扱いの件</p> <p>&lt;表彰（議事終了後）&gt;</p> <p>功績賞、フェロー、論文賞、喜安記念業績賞、長尾真記念特別賞、教育賞、学会活動貢献賞</p>	承認 承認 承認 承認  報告 報告  ---

### ■ 理事会

[第600回までの構成（理事25名）]

会 長：喜連川優

副 会 長：中田登志之、徳田英幸

先任理事：伊藤 智、乾健太郎、浦本直彦、加藤由花、菊池浩明、妹尾義樹、高橋克己、新田 淳、松原 仁、安本慶一

後任理事：相澤彰子、阿野茂浩、岩岸正明、片寄晴弘、河原達也、清木 康、後藤厚宏、後藤真孝、齋藤正史、角 康之、

住田一男、松尾昭彦

監 事：黒橋禎夫、守安 隆

[第601回以降の構成（理事27名）]

会 長：富田達夫

副 会 長：徳田英幸、前田 章

先任理事：相澤彰子、阿野茂浩、岩岸正明、片寄晴弘、河原達也、清木 康、後藤厚宏、後藤真孝、齋藤正史、角 康之、

住田一男、松尾昭彦

後任理事：伊藤 智、稲村 浩、大場みち子、加藤由花、河口信夫、小林 稔、鈴木 浩、関口智嗣、那須川哲哉、深澤紀子

松原 仁、山名早人

監 事：守安 隆、岡田謙一

※理事会成立定数：13名（第600回まで）、14名（第601回以降）

\*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項 ※ [ ] 内：担当理事	会議の結果
決議の省略・報告の省略 2015年4月23日（監事確認日）  議決可能理事数：全議案とも23名	<p>&lt;法令および定款により理事会決議があったものとする事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2015年4月の新規入会申請 [総務]</li> <li>2. 2015年度終身会員の承認 [総務]</li> <li>3. 支部運営委員会構成について [総務]</li> <li>4. 企業認定審査における競争法コンプライアンスに関する規程（案） [総務]</li> <li>5. CITP企業認定審査結果承認依頼 [技術応用]</li> <li>6. 認定情報技術者プレスリリース（案） [技術応用]</li> <li>7. オーラルヒストリー小委員会の廃止について [会誌]</li> <li>8. シンポジウム等の開催願い [調査研究]</li> <li>9. 領域委員会財務委員の交代について [調査研究]</li> <li>10. 国内会議の協賛・後援等依頼 [事業]</li> <li>11. 国際会議の協賛・後援等依頼 [事業]</li> <li>12. 情報規格調査会委員の変更 [標準化]</li> </ol> <p>&lt;法令および定款により理事会報告があったものとする事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2015年3月期開催会議 [総務]</li> <li>2. 2014年度末の会員数の状況 [総務]</li> <li>3. 2015年度支部報告会日程および担当役員について [総務]</li> <li>4. 2014年度功績賞受賞者：推薦文等 [総務]</li> <li>5. 臨時総務財務運営委員会議事録 [総務]</li> <li>6. 第8回新世代企画委員会議事録 [総務]</li> <li>7. 日本工学会フェロー認定のご連絡 [総務]</li> <li>8. 学会システムMonthly 統計資料（2015年3月分） [総務]</li> <li>9. 第47回・48回学会システムWG 議事録 [総務]</li> <li>10. 「平成27年度における電波資源拡大のための研究開発の基本計画書（案）」パブコメ提出 [総務]</li> </ol>	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認  確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認











	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 2015年10月月次損益管理表 [財務]</li> <li>3. 東海支部監査結果報告書 [総務]</li> <li>4. 学会システムMonthly 統計資料 (2015年10月分) [総務]</li> <li>5. 第98回歴史特別委員会議事録 [会誌]</li> <li>6. 2016年度研究会登録費の改定について [調査研究]</li> <li>7. 研究会の継続・新設・名称変更について [調査研究]</li> <li>8. 第72回調査研究運営委員会議事録 [調査研究]</li> <li>9. 第421回論文誌ジャーナル/JIP 編集委員会 (幹事会) 議事録 (抜粋) [論文誌]</li> <li>10. 第23回・24回セミナー推進委員会議事録 [技術応用]</li> <li>11. 短期集中セミナー「基礎からわかる 画像・音声符号化伝送技術入門」開催報告 [技術応用]</li> <li>12. 第66回デジタルプラクティス編集委員会議事録 [技術応用]</li> <li>13. 第18・19回個人認証審査委員会議事録 [技術応用]</li> <li>14. 第35回プログラミングコンテスト委員会議事録 [事業]</li> <li>15. 第325回規格役員会議事録 [標準化]</li> </ol>	<p>確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認</p>
<p>第605回理事会 2015年11月24日</p> <p>議長：富田達夫 (会長)</p> <p>議決可能理事数：全議案とも27名 出席理事数：24名</p>	<p>&lt;承認事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2016年度理事会推薦役員候補者立候補依頼順位 [総務]</li> <li>2. 事務局人件費について [総務]</li> <li>3. 期中監査での指摘事項に対する対応方針について [総務]</li> <li>4. 期中監査での指摘事項に対応した情報規格調査会規程実施細則改定について [標準化]</li> <li>5. 2015年度情報処理技術遺産認定候補リスト [会誌]</li> <li>6. 最高裁「専門委員」推薦候補者リスト [会誌]</li> <li>7. 女性委員会 (仮称) の運営について-旅費補助のお願い [会誌]</li> <li>8. IWSEC2016国際会議 開催申請 [調査研究]</li> <li>9. 平成27年度技術者教育プログラム認定審査業務契約書 (案) [教育]</li> </ol> <p>&lt;審議事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企画政策委員会関係 [副会長・企画] <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 12月役員検討会のテーマ・次第</li> <li>(2) 2014年度監事付帯意見への対応状況</li> <li>(3) 理事による個別会員勧誘状況</li> <li>(4) 会員増施策の進捗状況</li> <li>(5) 中長期戦略について</li> <li>(6) 企業会員の変遷と過去の産業界向け施策について</li> </ol> </li> <li>2. 2016年度予算編成方針/2016年度事業計画・予算提出依頼 [総務・財務]</li> </ol> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 月次損益管理 (2015年10月) [財務]</li> <li>2. 新名誉会員・学会活動貢献賞ほか：推薦のお願い [総務]</li> <li>3. 第140・141回総務財務運営委員会議事録 [総務]</li> <li>4. 2015年度第4・5回企画政策委員会議事録 [総務]</li> <li>5. BackUp用サーバのデータ消失について [総務]</li> <li>6. 会員数と会費収入、研究会者の状況について [総務]</li> <li>7. 第202回会誌編集委員会議事録/モニタ評価・特集ほか [会誌]</li> <li>8. 会誌広告状況 (2015年11月現在) [会誌]</li> <li>9. 会誌連載「学会探訪記」について [会誌]</li> <li>10. ジャーナル・JIP特集/トランザクション発行状況 [論文誌]</li> <li>11. 第20回トランザクション編集委員会議事録 [論文誌]</li> <li>12. デジタルプラクティス：特集リスト・ダウンロード数 [技術応用]</li> <li>13. ITフォーラム設立申請書「勉強会フォーラム」 [技術応用]</li> <li>14. 第9回情報科学技術推進委員会議事録/第12回FIT運営委員会議事録 [事業]</li> <li>15. SamurAI Coding2015-16参加登録開始のお知らせ [事業]</li> <li>16. 全国大会での新企画について [事業]</li> </ol> <p>参. 理事会アクションアイテムリスト</p>	<p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p> <p>承認 確認 確認 確認 継続検討 継続検討 承認</p> <p>確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認</p>
<p>12月役員検討会 2015年12月22日</p> <p>議長：富田達夫 (会長)</p> <p>出席：役員・支部長</p>	<p>&lt;集中検討テーマ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各支部の状況報告および意見交換</li> <li>2. グローバル化</li> <li>3. 学会の新しい方向性</li> </ol>	<p>意見交換 意見交換 意見交換</p>
<p>決議の省略・報告の省略 2015年12月25日 (監事確認日)</p> <p>議決可能理事数：全議案とも27名</p>	<p>&lt;法令および定款により理事会決議があったものとする事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2015年12月の新規入会申請 (個人会員221名) [総務]</li> <li>2. 2016年度役員選挙理事会推薦最終候補者 [総務]</li> <li>3. 2016年度代表会員最終候補者 [総務]</li> <li>4. シンポジウム等の開催願い/終了報告 [調査研究]</li> <li>5. 2015年デジタルプラクティス論文賞について [技術応用]</li> <li>6. 第78回全国大会におけるRECRUITINGイベント企画について [事業]</li> <li>7. 国内会議の協賛・後援等依頼 [事業]</li> </ol>	<p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p>







■各種委員会

※委員は6月以降の構成を掲載（以下、同）

◎委員長・主査、○副委員長・財務委員、幹事・副査、△担当理事（担務）、\*オブザーバ、アドバイザー委員

1. 法人運営

1.1 企画政策委員会

◎/△徳田英幸、○/△前田 章、松尾昭彦、稲村 浩、岩岸正明、鈴木 浩、阿野茂浩、深澤紀子、後藤厚宏、関口智嗣、後藤真孝、河口信夫、那須川哲哉

[6月22日、7月7日、9月4日、10月29日、11月13日、12月15日、'16年1月15日、2月15日、3月22日]  
アドバイザーボード対応／選挙制度および運営体制の見直し／会員サービスに関する検討ほか

1.1.1 学会システムWG

◎岩岸 正明、赤池洋俊、石井 旬、大森久美子、鳥居 悟、中津佳彦、森 良哉

[4月8日、4月21日、5月19日、5月29日、9月10日、11月30日、'16年1月19日]  
学会管理システムに関する検討対応

1.2 政策提言委員会

◎/△徳田英幸、○/△阿野茂浩、○/△深澤紀子、岩岸正明、片寄晴弘、清木 康、黒橋禎夫、後藤厚宏、小林 稔、関口智嗣、中野美由紀、東野輝夫、松尾昭彦

[6月25日]  
パブコメ対応状況／若手研究者の会の状況 ほか

1.2.1 若手研究者の会（幹事会）

◎黒橋禎夫→河口信夫（11月交代）、野田夏子、近藤正章、越前 功、大内一成、関嶋政和、高岡詠子、後藤 真、\*片寄晴弘、\*清木 康、\*小林 稔

[電子メールベース] 若手研究者の会 代表交代 ほか

1.3 総務財務運営委員会

◎/△前田 章、○/△松尾昭彦、○/△岩岸正明、△稲村 浩、△鈴木 浩、△後藤厚宏、△関口智嗣

[4月21日、5月26日、6月22日、7月7日、9月4日、10月28日、11月13日、12月15日、'16年1月15日、2月15日、3月22日]  
総会関連事項／損益状況／その他運営上の諸課題の検討対応

1.3.1 本部・規格連絡会

◎/△前田 章、○/△伊藤 智、○鈴木 浩、○松本隆明、松尾昭彦、岩岸正明、稲村 浩、櫻井義人、成井良久、河合和哉、福田昭一、本庄利守

[12月22日] 本部・規格調査会間の連絡

1.4 電子化委員会（学会システムWGの設置により休眠）

1.4.1 セキュリティ委員会

◎村山優子、△稲村 浩、大谷和子、岡本栄司、菊池浩明、佐々木良一、寺田真敏、鳥居 悟、△松尾 昭彦、丸山 宏

[電子メールベース] 情報セキュリティに関する諸対応

1.5 新世代対応企画委員会

◎後藤真孝、○河口信夫、稲見昌彦、△岩岸正明、落合陽一、五味悠一郎、△後藤厚宏、△齋藤正史、坂本大介、△角 康之、△住田 一男、△関口智嗣、高橋克巳、辻田 眸、寺田 努、西田健志、宮下芳明、\*中田登志之

[5月22日、7月7日、10月14日、11月13日、12月15日、'16年1月15日、2月15日、3月22日]  
新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込むための施策を検討、実施

1.6 支部長会議

◎/△富田達夫、△徳田英幸、△前田章、△松尾昭彦、△岩岸正明、△稲村浩、△鈴木浩、各支部長：小野哲雄（北海道）、大堀 淳（東北）、田中孝明（東海）、松本三千人（北陸）、安本慶一（関西）、谷口秀夫（中国）、獅々堀正幹（四国）、中嶋卓雄（九州）

[9月24日、12月22日（役員検討会）] 本部-支部の意見交換

1.7 アドバイザーボード

◎有信睦弘、舟橋千鶴子、藤本真樹、森 正弥、小山 透、金寺 登、富田真治、澁谷裕以、牛田圭一、大竹 暁

[7月22日] 第三者的な見地からの情報処理学会の運営に関する助言

2. 調査研究活動

2.1 調査研究運営委員会

◎/△清木 康、○/△片寄晴弘、○/△小林 稔、串田高幸、佐藤真一、徳永健伸、並木美太郎、屋代智之

開催年月日	主な議事事項	会議結果
2015年6月30日	1. 委員構成確認 2. 研究会等における情報保障の実施について 3. 調査研究活動への学会補助額について 4. 共通費の賦課について 5. シンポジウム事務諸費について	確認 承認⇒ 各領域・研究会に報告 承認 承認 承認
2015年10月22日	1. 2016年度研究会登録費算定方法 2. 中長期戦略について 3. 研究会の継続・新設・名称変更 4. 理事候補者の推薦	承認⇒ 理事会報告 継続審議 承認・確認⇒ 理事会報告 承認⇒ 推薦

2.2 コンピュータサイエンス領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△清木 康、○並木美太郎、上原隆平、鶴林尚靖、枝廣正人、五島正裕、庄野 逸、廣津登志夫、福井正博、南出靖彦、森嶋厚行、横川三津夫

2015年7月13日	領域共通-1. 2015年度山下記念研究賞 領域共通-2. 調査研究活動への学会補助額について 領域共通-3. 共通費の賦課について 領域共通-4. シンポジウム事務諸費について 領域共通-5. 研究会等における情報保障の実施について 領域共通-6. 国際会議開催申請書について	選定⇒ 理事会提案 承認 承認 承認 確認 確認
2015年10月2日	領域共通-1. 研究会の継続・新設・名称変更 領域共通-2. 2016年度研究会登録費算定方法 領域共通-3. 2015年度活動状況	承認⇒ 調査研究運営委員会へ提案／報告 確認・承認 確認
2016年2月18日	領域共通-1. 2016年度領域委員長・財務委員について 領域共通-2. 2015年度活動状況／2016年度計画 領域共通-3. 中長期戦略／会員増施策／事業報告／事業計画	確認・承認 確認 確認

2.3 情報環境領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△小林 稔、○屋代智之、市村 哲、稲村 浩、大内一成、柿本正憲、川村春美、河野恭之、齋藤正史、重野 寛、竹林洋一、刀川 真、塚本昌彦、寺島美昭、鳥居 悟、中挾知延子、藤井 敦、松浦幹太、山井成良

[7月24日、9月30日、'16年2月24日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

2.4 メディア知能情報領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△片寄晴弘、○徳永健伸、伊藤毅志、乾健太郎、梶田将司、金子 格、北原鉄朗、倉本 到、栗原 聡、篠田浩一、杉本晃宏、関嶋政和、西田知博、松村 敦

[7月21日、10月5日、'16年2月22日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

3. 人材育成活動

3.1 資格制度運営委員会 ※傘下のWGは掲載略

◎旭 寛治、落谷 亮、折原良平、寛 捷彦、掛下哲郎、齋藤正史、芝田 晃、玉井哲雄、那須川哲哉、西 直樹、松尾昭彦、吉野松樹

[4月23日、6月2日、7月9日、8月7日、9月7日、10月19日、11月26日、12月25日、'16年1月28日、2月15日、3月23日]  
認定情報技術者制度の検討

3.2 情報処理教育委員会（教育賞選定委員会を兼ねる） ※傘下の委員会は掲載略

◎寛 捷彦、○佐渡一広、○角田博保、△河原達也、△松原 仁、阿草清滋、位野木万里、上松恵理子、牛島和夫、大岩 元、掛下哲郎、金寺 登、神沼靖子、川合 慧、河村一樹、久野 靖、黒川恒雄、児玉公信、駒谷昇一、齋藤俊則、佐々木良一、清水尚彦、武井恵雄、辰己丈夫、辻 秀一、富樫 敦、都倉信樹、富田悦次、中森眞理雄、中山泰一、永松礼夫、西田知博、萩谷昌己、疋田輝雄、福田 晃、本位田真一、松永賢次、望月徹英、山本昌弘、弓場敏嗣、吉澤康文、吉村 晋、和田 勉

[4月13日、5月25日、7月10日、9月15日、11月16日、12月21日、'16年1月28日、3月9日]  
JABEE対応/J17準備/情報学分野の参照基準/次期学習指導要領改訂/免許更新講習/傘下の小委員会報告ほか

#### 4. 事業活動

##### 4.1 事業運営委員会

◎/△住田一男、○/△大場みち子、小林 稔

[電子メールベース] 全国大会、FIT、その他イベントの運営推進

##### 4.2 全国大会組織委員会 ※プログラム委員会、現地実行委員会は掲載略

◎/△徳田英幸、○/△住田一男、△大場みち子、片寄晴弘、清木 康、天野英晴

[9月24日、ほか電子メールベース] 全国大会の運営・開催推進

##### 4.3 FIT運営委員会 ※情報科学技術推進委員会・幹事会・実行委員会・プログラム委員会は掲載略

◎徳田英幸、○坂井修一、前田 章、△大場みち子、小林 稔、美濃導彦、佐藤 敦、天野英晴、井原雅行、△住田一男、清木 康、片寄晴弘、境田慎一、山崎俊彦、谷口行信、秋山達勇、新井田統

[7月17日、10月8日、11月6日、2月12日、ほか電子メールベース] FITの運営・開催推進

##### 4.4 プログラミング・シンポジウム幹事会 ※運営委員会は掲載略

◎岩崎 英哉、上田 真史、馬谷 誠二、中山 心太、松崎 公紀、三好 健文、山田 浩史、横山 大作

[ [6月9日、10月14日、12月15日、2月23日] 夏のプロシン/若手の会/冬のプロシンの開催推進

##### 4.5 コンピュータ将棋『あから』強化推進委員会

◎松原 仁、△住田一男、△大場みち子、飯田弘之、伊藤毅志、柿木義一、金子知適、岸本章宏、小谷善行、柴山悦哉、関口智嗣、瀧澤武信、田中哲朗、棚瀬 寧、近山 隆、鶴岡慶雅、中島 浩、橋本 剛、保木邦仁、山下 宏、横山大作、吉野松樹、\*湖東俊彦

[電子メールベース] コンピュータ将棋とプロ棋士の対戦推進

##### 4.6 プログラミングコンテスト委員会

◎鷲崎弘宜、\*近山 隆、△大場みち子、深澤紀子、坂本一憲、高田真吾、竹内郁雄、田中哲朗、新田 淳、平石 拓、吉野松樹

[4月8日、5月20日、6月30日、7月29日、8月28日、9月25日、10月29日、11月26日、12月17日、1月15日、2月25日]

プログラミングコンテストの開催推進

##### 4.7 技術応用運営委員会

◎寺中勝美、○前田 章、○△齋藤正史、○△那須川哲哉、稲村 浩、鈴木 浩、深澤紀子、吉野松樹、旭 寛治

[7月6日、12月9日、3月17日、ほか電子メールベース] 技術応用活動全体の調整・推進

##### 4.8 ITプロフェッショナル委員会 (高度IT資格関連WGの活動により休眠)

##### 4.9 セミナー推進委員会

◎△齋藤正史、○△那須川哲哉、浦本直彦、神島万喜也、中野美由紀、菊池浩明、杉田由美子、平手勇宇、茂木 強、米持幸寿、屋代 聡

[4月13日、5月22日、7月10日、8月26日、10月2日、11月5日、12月3日、1月19日、2月19日、3月17日] 連続セミナー・短期セミナーの

##### 4.10 ITフォーラム推進委員会 ※ソフトウェアジャパン関連委員会は掲載略

◎△齋藤正史、○△那須川哲哉、浦本直彦、神島万喜也、中野美由紀、菊池浩明、杉田由美子、平手勇宇、茂木 強、米持幸寿、屋代 聡

[3月17日、ほか電子メールベース] ITフォーラム・ソフトウェアジャパンの運営推進

#### 5. 会誌

##### 5.1 会誌編集委員会

◎塚本昌彦、△角 康之、△加藤由花、五十嵐悠紀、小野寺民也、金岡 晃、木下哲男、酒井洋平、末永俊一郎、谷 幹也、辻田 眸、鶴岡慶雅、土井千章、永野秀尚、西山博泰、坊農真弓、松崎公紀、村上知子、木村功作、高岡詠子、高橋雅和、入江英嗣、伊藤雅弘

[4月2日、5月7日、6月11日、7月3日、8月6日、9月3日、10月1日、11月6日、12月10日、1月14日、2月10日、3月3日]

全回共通：会誌の編集刊行

6. 機関誌／出版活動

6.1 学会論文誌運営委員会

◎/△相澤彰子、△山名早人、△片寄晴弘、△小林 稔、△清木 康

[電子メールベース] 論文誌全体に関する諸課題の対応

6.2 JIP編集委員会（幹事会）

◎岡部寿男、△相澤彰子、△山名早人、ほか「6.3 ジャーナル編集委員会（幹事会）」メンバ

\*Adam KOZYNIAK、\*Mamadou Tadiou KONÉ、\*Michael ENG、\*Monica CARLY、\*Raymond WAN、\*Robert DELANEY、\*Sylvain KAMDEM  
[海外編集委員] Galton PU（アメリカ）、Hee-Kap AHN（韓国）、Jeffrey Xu YU（香港）、Kunsoo PARK（韓国）、  
Rémi COULOM（フランス）、Seiji ISOTANI（ブラジル）、Winston SEAH（ニュージーランド）、Won-Gyu LEE（韓国）、  
Xiaofang ZHOU（オーストラリア）、M. M. Hafizur Rahman（マレーシア）、Audun Jøsang（ノルウェー）、Jungsuk Song（韓国）

[4月3日、5月9日、6月5日、7月1日、9月2日、10月2日、11月5日、12月7日、'16年1月12日、2月8日、3月4日]

全回共通：JIPの編集刊行

6.3 論文誌ジャーナル編集委員会（幹事会）

◎/△相澤彰子、○/△山名早人、堀山貴史、立石孝彰、浅井信吉、今泉貴史、重安哲也、沖野浩二、飯田 龍、藤田桂英、関野 樹、  
中山泰一、豊浦正広、竹田尚彦

[4月3日、5月9日、6月5日、7月1日、9月2日、10月2日、11月5日、12月7日、'16年1月12日、2月8日、3月4日]

全回共通：論文誌ジャーナルの編集刊行

6.4 トランザクション編集会議

◎/△相澤彰子、追川修一、岡田謙一、岡部寿男、角田博保、北 栄輔、木俣 豊、関嶋政和、戸川 望、野本忠司、南出靖彦、  
森嶋厚行、八木康史

[6月11日、11月16日] トランザクションの編集刊行に関する諸課題の対応

6.5 デジタルプラクティス編集委員会

◎吉野松樹、○茂木 強、赤津雅晴、伊藤 智、位野木万里、浦本直彦、海老原吉晶、上條浩一、齋藤 忍、△齋藤正史、颯々野学、  
澤谷由里子、住田一男、中野美由紀、△那須川哲哉、平山雅之、福島俊一、富士 仁、藤瀬哲朗、藤原陽子、峯松信明 \*喜連川優

[4月24日、5月29日、6月29日、7月31日、9月28日、10月21日、11月30日、12月24日、1月21日、2月23日、3月25日]

全回共通：デジタルプラクティスの編集刊行

6.6 デジタルコンテンツ事業検討委員会

◎/△徳田英幸、△松尾昭彦、△相澤彰子、安達 淳、今村 誠、△片寄晴弘、△加藤由花、△鈴木 浩、△住田一男、△那須川哲哉、  
塚本昌彦、平田圭二

[電子メールベース] デジタルコンテンツ事業の推進

6.7 出版委員会

6.7.1 教科書編集委員会

◎阪田史郎、○菊池浩明、△角 康之、△加藤由花、井戸上彰、大河内正明、駒谷昇一、坂下善彦、辰己丈夫、田名部元成、平山雅之、  
山本里枝子

[6月30日、9月24日、12月18日、3月28日] 教科書シリーズの刊行に関する検討

6.8 歴史特別委員会（傘下の小委員会は掲載略）

◎発田 弘、○旭 寛治、△角 康之、△加藤由花、宇田 理、浦城恒雄、久門耕一、橋爪宏達、前島正裕、松永俊雄、\*弘末清悟

[4月8日、6月17日、8月21日、10月22日、1月13日]

コンピュータに関する歴史の公開推進、情報処理技術遺産等の認定ほか

6.9 著作権委員会

◎△角 康之、○△加藤由花、相澤彰子、天野真家、大谷和子、片寄晴弘、清木 康、小林 稔、齋藤正史、杉本重雄

[電子メールベース] 知的財産権専門委員推薦、その他著作権に関する対応

7. 標準化活動

7.1 情報規格調査会（規格役員会）

◎/△伊藤 智、○河合和哉、○松本隆明、△鈴木 浩、落合真一、櫻井義人、成井良久、福田昭一、本庄利守、\*加藤 誠司

[4月3日、5月11日、6月15日、7月13日、9月14日、10月19日、11月9日、12月21日、'16年1月18日、2月8日、3月7日]

規格賛助員の入退会等／委員変更／国際会議派遣・招致／月次決算／JTC1総会対応／標準化関連受託対応ほか

8. 国際活動

8.1 IFIP委員会

☆村山優子（IFIP日本代表）、◎/△片寄晴弘、○/△清木 康、○/△小林 稔、小林直樹、胡 振江、齋藤俊則、中野 冠、相田 仁、亀田壽夫、内木哲也、小向太郎、金川信康、栗原 聡、北村喜文、星野准一、芝田 晃

[11月24日] IFIP年次総会報告／各TCの活動報告ほか。

9. 上記以外の委員会および委員は次サイトを参照

<http://www.ipsj.or.jp/annai/committee/meibo/2015/2015meibo.html>

付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧

[研究会等の詳細]

研究会等の名称 ( ( ) 内: 英略称、*: 研究グループ)	主査名 (運営委員数)	登録者数
[コンピュータサイエンス領域]		
データベースシステム (DBS)	森嶋厚行 (46)	470
ソフトウェア工学 (SE)	鶴林尚靖 (54)	519
システム・アーキテクチャ (ARC)	五島正裕 (27)	344
システムソフトウェアとオペレーティング・システム (OS)	廣津登志夫 (35)	311
システムとLSIの設計技術 (SLDM)	福井正博 (33)	273
ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC)	横川三津夫 (36)	531
プログラミング (PRO)	南出靖彦 (31)	384
アルゴリズム (AL)	上原隆平 (23)	212
数理モデル化と問題解決 (MPS)	庄野 逸 (27)	299
組込みシステム (EMB)	枝廣正人 (31)	293
[情報環境領域]		
マルチメディア通信と分散処理 (DPS)	重野 寛 (43)	376
ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI)	河野恭之 (36)	567
グラフィクスとCAD (CG)	柿本正憲 (30)	288
情報システムと社会環境 (IS)	刀川 眞 (20)	198
情報基礎とアクセス技術 (IFAT)	藤井 敦 (20)	164
オーディオビジュアル複合情報処理 (AVM)	川村春美 (14)	73
グループウェアとネットワークサービス (GN)	市村 哲 (31)	252
ドキュメントコミュニケーション (DC)	中挾知延子 (13)	92
モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム (MBL)	稲村 浩 (43)	329
コンピュータセキュリティ (CSEC)	鳥居 悟 (47)	582
高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS)	齋藤正史 (26)	170
ユビキタスコンピューティング (UBI)	大内一成 (28)	288
インターネットと運用技術 (IOT)	山井成良 (39)	424
セキュリティ心理学とトラスト (SPT)	松浦幹太 (20)	91
コンシューマ・デバイス&システム (CDS)	寺島美昭 (38)	191
デジタルコンテンツクリエーション (DCC)	塚本昌彦 (29)	105
高齢社会デザイン (ASD)	竹林洋一 (27)	98
[メディア知能情報領域]		
自然言語処理 (NL)	乾健太郎 (31)	502
知能システム (ICS)	栗原 聡 (5)	248
コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM)	杉本晃宏 (54)	591
コンピュータと教育 (CE)	西田知博 (49)	554
人文科学とコンピュータ (CH)	松村 敦 (25)	224
音楽情報科学 (MUS)	北原鉄朗 (29)	381
音声言語情報処理 (SLP)	篠田浩一 (25)	228
電子化知的財産・社会基盤 (EIP)	金子 格 (17)	110
ゲーム情報学 (GI)	伊藤毅志 (24)	279
エンタテインメントコンピューティング (EG)	倉本 到 (25)	226
バイオ情報学 (BIO)	関嶋政和 (14)	125
教育学習支援情報システム (GLE)	梶田将司 (20)	199
*ネットワーク生態学 (NE)	林 幸雄 (--)	---
*会員の力を社会につなげる (SSR)	寛 捷彦 (--)	---
*アクセシビリティ (AAC)	平賀瑠美 (--)	---
*情報処理に関する法的問題 (LIP)	高岡詠子 (--)	---

1. 研究発表会（調査研究活動分）

1.1 コンピュータサイエンス領域

1.1.1 データベースシステム研究発表会

回次	開催年月	場所	発表件数	参加者数	共催団体、その他備考
第161回	2015年8月5日～6日	東大寺総合文化センター	17	98	電子情報通信学会
第162回	2015年11月26日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	28	67	

1.1.2 ソフトウェア工学研究発表会

第188回	2015年6月4日～5日	東芝スマートコミュニケーター	11	23	
第189回	2015年7月22日～24日	札幌市教育文化会館	27	55	電子情報通信学会
第190回	2015年12月15日～16日	JR博多シティ会議室	21	42	
第191回	2016年3月14日～15日	大阪大学	30	68	

1.1.3 システム・アーキテクチャ研究発表会

第207回	2015年5月26日～27日	ルネッサンスリゾート オキナワ	20	32	
第208回	2015年8月4日～6日	ビーコンプラザ	43	121	電子情報通信学会
第209回	2015年10月8日	幕張メッセ国際会議場	21	17	電子情報通信学会
第210回	2016年1月19日～21日	慶應義塾大学日吉キャンパス	41	108	電子情報通信学会
第211回	2016年3月24日～25日	福江文化会館／勤労福祉センター	46	42	電子情報通信学会

1.1.4 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会

第133回	2015年5月26日～27日	ルネッサンスリゾート オキナワ	20	43	
第134回	2015年8月4日～5日	ビーコンプラザ	22	63	
第135回	2015年11月24日	お茶の水女子大学	16	43	
第136回	2016年2月29日～3月1日	理化学研究所	18	44	

1.1.5 システムとLSIの設計技術研究発表会

第171回	2015年5月14日	北九州国際会議場	10	19	電子情報通信学会
第172回	2015年10月26日～27日	作並温泉 一の坊	13	55	電子情報通信学会
第173回	2015年12月1日～3日	長崎勤労福祉会館	46	25	電子情報通信学会
第174回	2016年1月19日～21日	慶應義塾大学日吉キャンパス	41	89	電子情報通信学会
第175回	2016年3月24日～25日	福江文化会館／勤労福祉センター	46	36	電子情報通信学会

1.1.6 ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会

第149回	2015年6月26日	工学院大学	13	74	
第150回	2015年8月4日～6日	ビーコンプラザ	44	172	
第151回	2015年9月30日～10月1日	沖縄産業支援センター	26	63	
第152回	2015年12月16日～17日	北海道立道民活動センター	18	86	
第153回	2016年3月1日～3日	道後温泉 ホテル椿館	38	90	

1.1.7 プログラミング研究発表会

第104回	2015年6月4日～5日	富山県教育文化会館	7	26	
第105回	2015年8月4日～5日	ビーコンプラザ	12	44	
第106回	2015年11月5日～6日	国立情報学研究所	9	44	
第107回	2016年1月13日～14日	A.R.Kビル	10	26	
第108回	2016年2月28日～29日	東京大学 駒場キャンパス	11	37	

1.1.8 アルゴリズム研究発表会

第153回	2015年6月12日～13日	定山溪ビューホテル	22	84	電子情報通信学会
第154回	2015年9月28日	九州大学 西新プラザ	9	18	
第155回	2015年11月20日～21日	指宿市民会館	23	12	電子情報通信学会
第156回	2016年1月21日～22日	作並温泉 湯の原ホテル	5	10	併催：人工知能学会
第157回	2016年3月6日	電気通信大学	10	34	

1.1.9 数理モデル化と問題解決研究発表会

第103回	2015年6月23日～25日	沖縄科学技術大学院大学	68	37	電子情報通信学会
第104回	2015年7月27日	Monte Carlo	13	17	
第105回	2015年9月29日～30日	北見工業大学	16	23	
第106回	2015年12月15日	電気通信大学	10	23	
第107回	2016年3月8日～9日	山口健康づくりセンター	24	42	

1.1.10 組み込みシステム研究発表会

第37回	2015年6月4日～5日	東芝スマートコミュニケーション	11	21	
第38回	2015年8月28日	下呂温泉水明館	6	15	
第39回	2015年11月24日	お茶の水女子大学	16	25	
第40回	2016年3月24日～25日	福江文化会館／勤労福祉センター	46	40	電子情報通信学会

1.2 情報環境領域

1.2.1 マルチメディア通信と分散処理研究発表会

第163回	2015年5月28日～29日	宮古島マリンターミナル	36	43	電子情報通信学会
第164回	2015年9月10日～11日	倉敷市芸文館	19	50	
第165回	2015年12月10日～11日	宇奈月国際ホテル	20	33	
第166回	2016年3月3日～4日	明治大学 駿河台キャンパス	39	38	

1.2.2 ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会

第163回	2015年5月14日～15日	和倉温泉	14	23	
第164回	2015年7月31日～8月1日	福江文化会館 会議室	10	18	
第165回	2015年11月29日～30日	ビーコンプラザ	18	22	
第166回	2016年1月21日～22日	関西学院大学 梅田キャンパス	11	36	
第167回	2016年3月8日～9日	早稲田大学 早稲田キャンパス	20	47	

1.2.3 グラフィクスとCAD研究発表会

第159回	2015年6月30日～7月1日	広島大学 東広島キャンパス	14	35	日本バーチャルリアリティ学会
第160回	2015年8月29日	東京工科大学 蒲田キャンパス	9	28	
第161回	2015年11月6日～7日	神戸大学	30	51	
第162回	2016年2月8日	国立情報学研究所	8	26	CG-ARTS協会

1.2.4 情報システムと社会環境研究発表会

第132回	2015年6月13日	青山学院大学	10	22	
第133回	2015年9月3日～4日	岩手県立大学	8	23	
第134回	2015年12月5日	武蔵大学	5	18	
第135回	2016年3月7日	東京電機大学 東京千住キャンパス	7	24	

1.2.5 情報基礎とアクセス技術研究発表会

第119回	2015年8月5日～6日	東大寺総合文化センター	17	75	電子情報通信学会
第120回	2016年1月25日	東京工業大学 大岡山キャンパス	6	32	
第121回	2016年2月5日	キャンパスプラザ京都	2	4	併催：電子情報通信学会
第122回	2016年3月24日	東京工業大学 大岡山キャンパス	11	17	

1.2.6 オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会

第89回	2015年8月3日	首都大学東京	8	40	映像情報メディア学会 電子情報通信学会
第90回	2015年9月3日～4日	関西大学	14	40	電子情報通信学会
第91回	2015年12月3日～4日	神戸大学	28	52	映像情報メディア学会 電子情報通信学会
第92回	2016年2月26日	沖縄セルラー電話	5	13	

1.2.7 グループウェアとネットワークサービス研究発表会

第95回	2015年5月14日～15日	津田塾大学 小平キャンパス	19	67	電子情報通信学会
第96回	2015年10月2日～3日	高山市民文化会館	23	34	電子情報通信学会
第97回	2016年1月21日～22日	肥後銀行天草支店 会議室	39	18	
第98回	2016年3月14日～15日	大妻女子大学 千代田キャンパス	14	39	

1.2.8 ドキュメントコミュニケーション研究発表会

第98回	2015年7月13日～14日	公立はこだて未来大学	10	18	併催：電子情報通信学会
第99回	2015年10月23日	凸版印刷(株) 印刷博物館	3	14	
第100回	2015年12月1日	セコムホール	4	14	
第101回	2016年3月24日	東京工業大学 大岡山キャンパス	11	17	

1.2.9 モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム研究発表会

第75回	2015年5月28日～29日	宮古島マリンターミナル	36	42	電子情報通信学会
第76回	2015年10月1日～2日	NTT武蔵野研究開発センタ	16	24	
第77回	2015年12月3日～4日	愛知工業大学 八千草キャンパス	23	36	
第78回	2016年2月29日～3月1日	東京理科大学 森戸記念館	38	33	電子情報通信学会

1.2.10 コンピュータセキュリティ研究発表会

第69回	2015年5月21日～22日	別府国際コンベンションセンター	34	42	電子情報通信学会
第70回	2015年7月2日～3日	名古屋市中小企業振興会館	26	79	電子情報通信学会
第71回	2015年12月4日	情報セキュリティ大学院大学	16	59	日本セキュリティ・マネジメント学会
第72回	2016年3月3日～4日	明治大学 駿河台キャンパス	39	90	

1.2.11 高度交通システムとスマートコミュニティ研究発表会

第61回	2015年5月21日～22日	神奈川工科大学 横浜キャンパス	11	13	
第62回	2015年8月24日～25日	稚内北星学園大学	16	25	電子情報通信学会 電気学会
第63回	2015年12月3日～4日	愛知工業大学 八千草キャンパス	23	13	
第64回	2016年3月7日～8日	金沢工業大学 扇が丘キャンパス	13	90	

1.2.12 ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会

第46回	2015年5月11日～12日	名古屋大学 東山キャンパス	13	37	
第47回	2015年7月27日～28日	立命館大学 大阪いばらきキャンパス	23	29	
第48回	2015年11月29日～30日	ビーコンプラザ	18	19	
第49回	2016年2月29日～3月1日	東京理科大学 森戸記念館	38	30	電子情報通信学会

1.2.13 インターネットと運用技術研究発表会

第29回	2015年5月21日～22日	別府国際コンベンションセンター	34	77	電子情報通信学会
第30回	2015年7月3日～4日	じゅうろくプラザ	12	61	
第31回	2015年9月25日～26日	宮崎市民プラザ	16	37	
第32回	2016年3月3日～4日	虹の松原ホテル	47	96	電子情報通信学会

1.2.14 セキュリティ心理学とトラスト研究発表会

第13回	2015年5月14日～15日	津田塾大学 小平キャンパス	19	47	電子情報通信学会
第14回	2015年7月2日～3日	名古屋市中小企業振興会館	26	14	電子情報通信学会
第15回	2015年9月25日～26日	宮崎市民プラザ	16	8	
第16回	2015年11月20日	新潟大学「ときめいと」	15	15	
第17回	2016年3月3日～4日	京都大学 学術情報メディアセンター	28	8	電子情報通信学会

1.2.15 コンシューマ・デバイス&システム研究発表会

第13回	2015年5月21日～22日	神奈川工科大学 横浜キャンパス	11	54	
第14回	2015年10月1日～2日	NTT武蔵野研究開発センタ	16	46	
第15回	2016年1月21日～22日	肥後銀行天草支店 会議室	39	31	

1.2.16 デジタルコンテンツクリエイション研究発表会

第10回	2015年6月5日	日本大学	5	18	
第11回	2015年11月9日	多摩美術大学	13	26	
第12回	2016年1月21日～22日	肥後銀行天草支店 会議室	39	15	

1.2.17 高齢社会デザイン研究発表会

第1回	2015年5月25日	東京大学 本郷キャンパス	6	57	
第2回	2015年7月27日～28日	立命館大学 大阪いばらきキャンパス	23	30	
第3回	2015年11月14日	静岡県立大学 小鹿キャンパス	13	50	
第4回	2016年2月27日	東京大学 本郷キャンパス	9	42	

1.3 メディア知能情報領域

1.3.1 自然言語処理研究発表会

第221回	2015年5月25日～26日	東北大学	16	50	
第222回	2015年7月15日～16日	首都大学東京	14	79	
第223回	2015年9月27日～28日	広島経済大学	14	38	
第224回	2015年12月3日～4日	名古屋工業大学	19	55	電子情報通信学会
第225回	2016年1月22日	ミクシィ	7	45	

1.3.2 知能システム研究発表会

第180回	2016年7月16日	ホテルニュー種子島	5	6	
第181回	2016年12月22日	東京農工大学	7	13	
第182回	2016年3月1日～4日	ルスツリゾートホテル	9	44	連続開催:人工知能学会, 電子情報通信学会
第183回	2016年3月16日	名古屋工業大学	21	28	

1.3.3 コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会

第197回	2015年5月18日～19日	日本科学未来館	36	64	
第198回	2015年9月14日～15日	愛媛大学	31	23	電子情報通信学会
第199回	2015年11月6日～7日	神戸大学	30	59	
第200回	2016年1月21日～22日	大阪大学	48	93	電子情報通信学会 日本バーチャルリアリティ学会
第201回	2016年3月3日～4日	金沢工業大学	15	54	

1.3.4 コンピュータと教育研究発表会

第130回	2015年6月6日	岩手県立大学	6	24	
第131回	2015年10月10日～11日	静岡大学	21	54	
第132回	2015年12月4日～6日	JR福井駅前AOSSA	39	54	電子情報通信学会
第133回	2016年2月13日～14日	東京農工大学	23	81	
第134回	2016年3月5日～6日	京都情報大学院大学	26	67	

1.3.5 人文科学とコンピュータ研究発表会

第106回	2015年5月16日	国立国会図書館	13	49	
第107回	2015年8月9日	奈良大学	9	49	
第108回	2015年10月24日	立命館大学	5	24	
第109回	2016年1月30日	国立情報学研究所	3	29	

1.3.6 音楽情報科学研究発表会

第107回	2015年5月23日～24日	電気通信大学	74	263	
第108回	2015年8月31日～9月2日	名古屋大学	16	71	
第109回	2015年11月7日～8日	金沢大学 サテライトプラザ	12	48	
第110回	2016年2月29日～3月1日	相愛大学 本町キャンパス	19	65	

1.3.7 音声言語情報処理研究発表会

第106回	2015年5月25日～26日	東北大学	16	45	
第107回	2015年7月16日～17日	上諏訪温泉	4	47	併催：電子情報通信学会，日本音響学会
第108回	2015年10月30日	早稲田大学	7	106	
第109回	2015年12月2日～3日	名古屋工業大学	23	105	電子情報通信学会，日本音響学会
第110回	2016年2月5日～6日	万葉の隠れ里つるぎ恋月	8	33	

1.3.8 電子化知的財産・社会基盤研究発表会

第68回	2015年5月28日～29日	情報セキュリティ大学院大学	14	23	電子情報通信学会
第69回	2015年9月10日～11日	倉敷市芸文館	19	45	
第70回	2015年11月20日	新潟大学「ときめいと」	15	21	
第71回	2016年2月19日	京都佛教大学 二条キャンパス	11	23	

1.3.9 ゲーム情報学研究発表会

第34回	2015年7月4日	九州工業大学	9	18	
第35回	2016年3月8日～9日	電気通信大学	13	53	

1.3.10 エンタテインメントコンピューティング研究発表会

第36回	2015年6月8日～9日	出雲科学館	15	21	電子情報通信学会
第37回	2015年8月23日～24日	中安旅館	6	11	
第38回	2015年12月11日	ヤフー(株)	8	27	
第39回	2016年3月16日～18日	京都大学	15	44	

1.3.11 バイオ情報学研究発表会

第42回	2015年6月23日～25日	沖縄科学技術大学院大学	68	42	電子情報通信学会
第43回	2015年9月12日	慶應義塾大学	6	14	
第44回	2015年12月7日	京都大学 iPS細胞研究所	7	15	
第45回	2016年3月18日～19日	北陸先端科学技術大学院大学	11	22	

1.3.12 教育学習支援情報システム研究発表会

第16回	2015年5月22日～23日	放送大学熊本学習センター	14	37	
第17回	2015年12月4日～6日	JR福井駅前AOSSA	39	46	電子情報通信学会
第18回	2016年2月6日	日本女子大学	7	31	

## 2. シンポジウム等

### 2.1 調査研究活動分

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム (HPCS2015)	2015年5月19日～20日	東京大学 武田先端知ビル	45	193
マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOMO2015) シンポジウム	2015年7月8日～10日	ホテル安比グランド	279	425
画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2015)	2015年7月27日～30日	ホテル阪急エキスポパーク	281	624
情報教育シンポジウム2015 (SSS2015)	2015年8月17日～19日	境港マリーナホテル	38	85
DAシンポジウム2015	2015年8月26日～28日	山代温泉 ゆのくに天祥	59	111
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2015 (SES2015)	2015年9月7日～9日	慶應義塾大学 日吉キャンパス	45	164
エンタテインメントコンピューティングシンポジウム (EC2015)	2015年9月25日～27日	札幌市教育文化会館／北海道大学学術交流会館	129	214
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPSWS2015)	2015年10月14日～16日	雲仙温泉 雲仙富貴屋	53	93
組込みシステムシンポジウム2015 (ESS2015)	2015年10月21日～23日	早稲田大学	50	153
コンピュータセキュリティシンポジウム (GSS2015)	2015年10月21日～23日	長崎市長崎ブリックホール	184	542
SOUPS2015論文読破会	2015年10月29日	SECOM本社 セコムホール	18	27
ゲームプログラミングワークショップ2015 (GPW2015)	2015年11月6日～8日	軽井沢学習研修所	31	97
Webとデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum 2015)	2015年11月24日～25日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	67	355
コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2015)	2015年11月25日	お茶の水女子大学	18	52
インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2015)	2015年11月26日～27日	千葉大学 西千葉キャンパス	27	116
情報システムのデザイン論シンポジウム	2015年11月27日	産業技術大学院大学	4	57
グループウェアとネットワークサービスワークショップ2015	2015年11月27日～28日	ホテルニュー塩原	9	21
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん2015)	2015年12月19日～20日	同志社大学 京田辺校地	44	145
災害コミュニケーションシンポジウム	2015年12月26日	東京電機大学 千住キャンパス	11	34
高度交通システム2016シンポジウム	2016年1月15日	日本科学未来館	7	50
Annual Meeting on Advanced Computing System and Infrastructure (AGSI2016)	2016年1月18日～20日	九州大学医学部百年講堂	54	132
ウインターワークショップ2016・イン・逗子	2016年2月4日～5日	湘南国際村センター	47	63
インタラクシオン2016	2016年3月2日～4日	科学技術館	240	754

### 2.2 教育活動分

高校教科「情報」シンポジウム2015春 in 関西 －掃ってきたジョーシンうめきたー	2015年5月23日	大阪工業大学 うめきたナレッジセンター	5	61
高校教科「情報」シンポジウム2015秋 －ジョーシン2015－	2015年10月31日	早稲田大学西早稲田キャンパス	6	82

## 3. 事業活動

### 3.1 全国大会

名称	開催年月	場所	一般講演	招待講演	参加数
第78回全国大会	2016年3月10日～12日	慶應義塾大学 矢上キャンパス	1456	4	3220

### 3.2 FIT (情報科学技術フォーラム)

FIT2015 第14回情報科学技術フォーラム	2015年9月15日～17日	愛媛大学 城北キャンパス	590	1	1,206
-------------------------	----------------	--------------	-----	---	-------

※共催：電子情報通信学会 (情報・システムサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ)

### 3.3 連続セミナー2015：テーマ「イノベーション最前線：押し寄せる変革の本質を探る」

名称	開催年月	場所	演題数	本会場 参加数	遠隔会場 参加数
クラウド基盤技術の最新動向	2015年6月18日	各回とも 本会場：化学会館 遠隔会場：大阪大学中之 島センター	5	87	17
ものづくりとICTの新たな統合～Industrie4.0を切る～	2015年7月2日		6	125	22
次世代ロボット技術の最新動向	2015年9月30日		5	77	22
Deep Learningと人工知能	2015年10月13日		5	119	43
IoTが未来を創る：データ駆動型経済の夜明け	2015年11月24日		5	91	22
人間中心インタフェース	2015年12月18日		5	73	14

※協賛：電子情報技術産業協会、情報サービス産業協会、日本情報システム・ユーザー協会、電子情報通信学会

### 3.4 短期集中セミナー

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
基礎からわかる 画像・音声符号化伝送技術入門	2015年9月24日	化学会館	5	46	※協賛

※) 電子情報通信学会、映像情報メディア学会、IEEE東京支部

「Exciting Coding!2015～ITスペシャリストが語る イノベーションの面白さ」	2014年12月6日	日本マイクロソフト	5	53	※協賛
---	------------	-----------	---	----	-----

※) 情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、日本情報システム・ユーザー協会

### 3.5 プログラミング・シンポジウム

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
夏のプログラミング・シンポジウム2015	2015年9月4日～6日	岐阜県下呂温泉 水明館	11	17
第48回情報科学若手の会	2015年9月19日～21日	山喜旅館	17	52
第57回プログラミング・シンポジウム	2016年1月8日～10日	ラフォーレ倶楽部 伊東温泉湯の庭	23	93

### 3.6 IPSJ International AI Programming Contest

名称	開催年月	場所	チーム数	参加数	備考
Samurai Coding 2015-16 (Final Round)	2016年3月11日	慶應義塾大学矢上キャンパス	18	21	※

※) 協賛：China Computer Federation、慶應義塾大学理工学部情報工学科、IEEE Computer Society、IEEE Computer Society Japan Chapter、IEEE Japan Office、情報科学国際交流財団、電子情報技術産業協会、情報サービス産業協会、日本ソフトウェア科学会、日本情報システム・ユーザー協会、電子情報通信学会、人工知能学会、The Korean Institute of Information Scientists and Engineers

後援：文部科学省、経済産業省、情報処理推進機構

ゴールドスポンサー：いい生活、日立製作所、レコチョク、TIS、サポーター：ヴォーカル・スクール ヴィーナス、富士通、クレイ・ジャパン・インク  
メディアスポンサー：ジースタイラス、マネーフォワード

## 4. 技術応用活動

### 4.1 個別ITフォーラム (7件)

名称	代表者名
サービスサイエンス	諏訪良武
ユニバーサルデザイン協創	萩川友宏
コンタクトセンター	宮崎義文
IT未来人材	森川博之
ビッグデータ活用実務	石井一夫
CITP	平林元明
勉強会	河口信夫

#### 4.2 ITフォーラム関連のイベント

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
ソフトウェアジャパン2016 「人工知能が2020を変える」	2016年2月4日	一橋大学一橋講堂会議 室・学術総合センターN11	5	842	※1,2

- ※1) 協賛：情報サービス産業協会、日本情報システム・ユーザー協会、電子情報技術産業協会、先端IT活用推進コンソーシアム、電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会、科学技術振興機構、国立情報学研究所、情報通信研究機構、データサイエンティスト協会、人工知能学会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会、日本計算機統計学会、日本技術士会、日本統計学会、日本計量生物学会、情報計量化学生物学会、日本バイオインフォマティクス学会、応用統計学会  
後援：文部科学省、経済産業省、総務省、情報処理推進機構、スポンサー：9口、サポーター：32口、展示：2口  
※2) 招待講演5件のほか、パネル討論、SJアワードセレモニー、ITフォーラム7件（他団体連携3件（IPA・AITC・JST））を開催

#### 5. 支部活動（※役員会等は除く）

##### 5.1 北海道支部

- ・情報処理北海道シンポジウム2015（10月3日、北海道情報大学） 演題数64件、参加者数124名
- ・支部講演会 1回（'16年3月5日）

##### 5.2 東北支部

- ・電気関係学会東北支部連合大会（8月27-28日、岩手県立大学） 演題数225件、参加者数450名
- ・支部研究会 7回（12月1-2日、12月11日、12月19日、'16年1月30日、2月10日、2月19日、3月7日）
- ・支部講演会 4回（6月17日、11月20日、12月24日、'16年1月25日）

##### 5.3 東海支部

- ・電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（9月17-18日、名古屋工業大学） 演題数597件、参加者数1,036名
- ・講演会 7回（5月18日、7月22日、9月18日、10月22日、11月25日、12月2日、'16年1月27日）
- ・研究会 11回（協賛等）

##### 5.4 北陸支部

- ・特別講演会 1回（5月18日）
- ・研究講演会 4回（7月29日（2件）、11月16日、'16年3月8日）
- ・電気関係学会北陸支部連合大会（9月12-13日、金沢工業大学） 演題数285件、参加者数564名
- ・北陸地区学生による研究発表会（'16年3月、石川工業高専）

##### 5.5 関西支部

- ・関西支部支部大会（9月28日、大阪大学中之島センター） 演題数74件、参加者数145名
- ・支部研究会：社会知能研究会 1回（9月28日）、並列分散処理研究会 特になし（2015年度で終了）、ネットワークサービス研究会 1回（9月28日）、グリーン組込みコンピューティング研究会 1回（9月28日）
- ・支部セミナー 3回（7月26日、7月29日・8月5日、11月25日）
- ・講演会 1回（11月7日）
- ・連続セミナー2015（遠隔会場） 6回（6月18日、7月2日、9月30日、10月13日、11月24日、12月18日）

##### 5.6 中国支部

- ・電気・情報関連学会中国支部連合大会（10月17日、山口大学） 演題数278件、参加者数478名
- ・講演会 9回（5月22日、6月5日、7月3日、12月4日、'16年1月27日、2月26日、2月29日（2件）、3月8日）
- ・講習会 3回（11月30日、12月3日、'16年2月12日）

##### 5.7 四国支部

- ・電気系学会四国支部連合大会（9月26日、高知工科大学） 発表者数346名、参加者数491名
- ・共催事業 5回（8月11日、9月12-13日、11月14日、12月11日、'16年3月3-4日）
- ・講演会 6回（6月12日、11月6日（2件）、11月20日、'16年2月1日、2月2日）

##### 5.8 九州支部

- ・電気関係学会九州支部連合大会（9月26-27日、福岡大学） 講演数498件、聴講者数768名
- ・若手の会セミナー（9月14-15日、志賀島休暇村） 参加者数19名
- ・火の国情報シンポジウム（'16年3月2-3日、宮崎大学）
- ・講演会等 1回（7月8日）

### 付3. 刊行物（機関誌・図書）一覧

#### 1. 会誌「情報処理」（月刊）

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				記事数	本文頁数	広告頁数
2015年4月15日	56	5	いまさら聞けない！ コンピュータの数学／学会イベント支援	20	99	6
2015年5月15日	56	6	障がい者・高齢者と築く社会参加支援	28	93	4
2015年6月15日	56	7	画像認識革命／宇宙開発への情報技術の貢献	24	109	4
2015年7月15日	56	8	あのころの未来／宇宙システムのつくりかた	46	104	6
2015年8月15日	56	9	ウェアラブル・ユビキタスコンピューティング研究の最新動向／クラウドソーシングの現状と可能性	72	118	8
2015年9月15日	56	10	ビッグデータがもたらす超情報社会—すべてを視る情報処理技術	21	99	6
2015年10月15日	56	11	暗号と社会の素敵な出会い	21	99	6
2015年11月15日	56	12	プログラミング言語Rubyの最新動向	26	109	4
2015年12月15日	57	1	自然言語処理技術の現状と展望—エラー分析プロジェクトを通して—	34	115	6
2016年1月15日	57	2	かわいい／KDD Cup 2015	27	109	4
2016年2月15日	57	3	災害科学と情報技術	24	109	6
2016年3月15日	57	4	プログラミング入門をどうするか	22	89	6

#### 2. 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2015年4月15日	56	4	インタラクションの理解および基盤・応用技術	19	0	187
2015年5月15日	56	5	娯楽の離散数理論／新しい社会を創る情報システム	23	0	114
2015年6月15日	56	6	Applications and the Internet in Conjunction with Main Topics of COMPSAC 2014	20	0	99
2015年7月15日	56	7	---	4	0	18
2015年8月15日	56	8	組込みシステム工学	14	2	132
2015年9月15日	56	9	社会に浸透していくコンピュータセキュリティ技術	36	1	252
2015年10月15日	56	10	E-Service and Knowledge Management toward Smart Computing Society	18	0	129
2015年11月15日	56	11	---	12	0	118
2015年12月15日	56	12	ヒューマンファクタを考慮したセキュリティとプライバシー	24	0	216
2016年1月15日	57	1	スマートコミュニティ実現のための高度交通システムとモバイル通信／創造する時代のコラボレーション支援とネットワークサービス	41	0	392
2016年2月15日	57	2	ネットワークサービスと分散処理／ソフトウェア工学／組込みシステム工学	45	0	418
2016年3月15日	57	3	クラウド時代のインターネット運用技術／学生・若手研究者論文	41	1	296

3. 「Journal of Information Processing (JIP)」 (隔月刊)

※オンライン刊行のみ

発行年	巻	号	備考	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2015年5月15日	23	3	トランザクション連携論文：3	19	0	143
2015年7月15日	23	4	トランザクション連携論文：3	16	0	150
2015年9月15日	23	5	トランザクション連携論文：2	20	1	213
2015年11月15日	23	6	トランザクション連携論文：2	11	0	101
2016年1月15日	24	1	トランザクション連携論文：6	18	0	181
2016年3月15日	24	2	トランザクション連携論文：2	27	0	268

4. 「情報処理学会論文誌 (トランザクション)」 (不定期、10誌)

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	トランザクション名	その他参考	
				論文数	本文頁数
2015年06月02日	8	1	プログラミング	2	17
2015年07月08日	8	2	プログラミング	1	6
2015年09月21日	8	3	プログラミング	4	40
2015年12月04日	8	4	プログラミング	4	17
2016年02月26日	9	1	プログラミング	4	17
2015年07月24日	8	2	数理モデル化と応用	8	87
2015年11月30日	8	3	数理モデル化と応用	3	35
2016年02月08日	9	1	数理モデル化と応用	5	52
2015年06月30日	8	2	データベース	6	77
2015年09月30日	8	3	データベース	3	39
2015年12月28日	8	4	データベース	3	26
2016年03月31日	9	1	データベース	3	30
2015年06月16日	8	2	コンピューティングシステム	5	54
2015年07月27日	8	3	コンピューティングシステム	2	29
2015年11月20日	8	4	コンピューティングシステム	10	97
2016年03月08日	9	1	コンピューティングシステム	5	40
2015年06月24日	5	3	コンシューマ・デバイス&システム	2	18
2015年10月03日	5	4	コンシューマ・デバイス&システム	15	143
2015年12月29日	5	5	コンシューマ・デバイス&システム	2	18
2015年08月27日	3	2	デジタルコンテンツ	5	51
2016年02月18日	4	1	デジタルコンテンツ	5	45
2015年06月19日	1	3	教育とコンピュータ	7	61
2015年12月09日	1	4	教育とコンピュータ	10	100
2015年07月15日	8	-	Bioinformatics	1	5
2015年08月19日	8	-	Bioinformatics	2	14
2016年03月25日	9	-	Bioinformatics	1	6
2016年03月29日	9	-	Bioinformatics	2	11
2015年08月01日	8	-	System LSI Design Methodology	10	85
2016年02月12日	9	-	System LSI Design Methodology	5	47
2015年04月16日	7	-	Computer Vision and Applications	1	6
2015年05月07日	7	-	Computer Vision and Applications	1	9
2015年07月27日	7	-	Computer Vision and Applications	11	54
2015年08月31日	7	-	Computer Vision and Applications	1	17
2015年10月20日	7	-	Computer Vision and Applications	1	17
2015年11月26日	7	-	Computer Vision and Applications	2	25
2015年12月16日	7	-	Computer Vision and Applications	3	38
2016年02月17日	8	-	Computer Vision and Applications	2	19

5. 「情報処理学会デジタルプラクティス」 (年4回)				その他参考	
発行年月日	巻	号	特集テーマ	論文数	本文頁数
2015年4月15日	6	2	教育と情報通信技術 (IGT)	10	104
2015年7月15日	6	3	ビッグデータ分析をビジネスに活かす	7	66
2015年10月15日	6	4	UXが拓く新しいデザインの世界	7	70
2016年1月15日	7	1	3Dプリンタがもたらす、革新ものづくりによる新たな世界	9	84

6. その他出版 (新刊)			※判型: A5、委託出版社名: オーム社	
発行年月	書籍名		発行部数	本文頁数
2015年10月10日	IT textシリーズ 情報通信ネットワーク		1,500	274

7. その他出版 (重版)			※いずれも、判型: A5、委託出版社名: オーム社	
発行年月	書籍名		発行部数	本文頁数
2015年4月5日	IT textシリーズ (一般教育) 情報と社会 1版8刷		100	212
2015年5月20日	IT Textシリーズ (一般教育) 情報とコンピュータ 1版3刷		300	166
2015年6月20日	IT textシリーズ メディア学概論 1版2刷		500	172
2015年8月20日	IT textシリーズ コンピュータグラフィックス 1版8刷		400	268
2015年8月20日	IT textシリーズ コンパイラとバーチャルマシン 1版12刷		500	212
2015年9月5日	IT textシリーズ 応用Web技術 1版9刷		215	210
2015年9月10日	IT textシリーズ 情報リテラシー 1版10刷		84	248
2015年9月25日	IT textシリーズ Linux演習 1版7刷		300	210
2015年10月5日	IT textシリーズ ソフトウェア工学演習 1版10刷		100	228
2015年10月5日	IT textシリーズ プログラム仕様記述論 1版9刷		75	192
2015年10月5日	IT textシリーズ ソフトウェア開発 1版15刷		200	212
2015年11月20日	IT textシリーズ 情報と職業 (改訂2版) 2版1刷		1500	222
2015年12月25日	IT textシリーズ ソフトウェア開発 (改訂2版) 2版1刷		1500	224
2016年1月20日	IT textシリーズ オペレーティングシステム 1版19刷		1000	230

#### 付4. 国際会議一覧

※以下は、2015年度内に終了報告が完了した国際会議

名称	開催年月	場所	参加数	内 海外参加	海外 共催団体
The 9th International Workshop on Security (IWSEC2014)	2014年8月27日-29日	日本 (青森)	72名	16名	---
The 20th Asia and South Pacific Design Automation Conference 2015 (ASP-DAC 2015)	2015年1月19日-22日	日本 (千葉)	433名	198名	・ IEEE CAS ・ IEEE CEDA ・ ACM SIGDA
The 10th International Workshop on Security (IWSEC2015)	2015年8月26日-28日	日本 (奈良)	104名	22名	---

付5. 表彰等 \*いずれも所属( )内は選定当時、掲載は順不同、敬称略

1. 新名誉会員 (2名) [2016年度定時総会 (2016年6月) 表彰] [理事会 (2016年1月)]

- ・片山卓也 (中央大)
- ・齊藤忠夫 (日本電子通信協会)

2. 功績賞 (3名) [2016年度定時総会 (2016年6月) 表彰] [功績賞選定委員会 (2016年3月)]

- ・松山隆司 (京大)
- ・高橋 修 (はこだて未来大)
- ・池内克史 (マイクラフト リサーチ アジア)

3. 新フェロー (15名) [2016年度定時総会 (2016年6月) 表彰] [フェロー選定委員会 (2016年2月)]

- ・阿久津達也 (京大) 「バイオインフォマティクスの数理モデルとアルゴリズムの研究に対する貢献」
- ・天野英晴 (慶大) 「並列計算機アーキテクチャと動的再構成可能システム技術に対する貢献」
- ・有川節夫 (九大) 「「発見科学」の学問領域の確立と情報科学分野発展への貢献」
- ・浦城恒雄 (東京工科大) 「先進的コンピュータの開発と各種標準規格制定活動による情報処理産業発展への貢献」
- ・大野義夫 (慶大) 「CGや文書処理等の技術に関する先駆的業績および関連分野の人材育成」
- ・折原良平 (東芝) 「データマイニングおよびマルチメディア技術の実用化に対する貢献と人材育成」
- ・串田高幸 (日本IBM) 「クラウドコンピューティングの研究開発および学会の運営および活性化に対する貢献」
- ・興水大和 (中京大) 「大局視覚・視覚感性情報処理の研究ならびに学会活動への貢献」
- ・小林 稔 (明大) 「コミュニケーション・コラボレーション支援技術の研究および学会運営への貢献」
- ・小林哲則 (早大) 「ロボット会話研究に対する先駆的な貢献と研究コミュニティの活性化への貢献」
- ・齊藤忠夫 (日本電子通信協会) 「デジタル交換方式、プロトコル工学およびコンピュータネットワークに対する貢献」
- ・高橋克巳 (NTT) 「パーソナルデータ活用のためのプライバシー保護技術の社会普及」
- ・日高一義 (東工大) 「情報科学技術におけるサービスサイエンス新領域の確立と日本のコミュニティ創出に対する貢献」
- ・朴 泰祐 (筑波大) 「高性能計算システムの開発およびアプリケーション高速化に関する貢献」
- ・吉浦 裕 (電通大) 「情報の活用と保護のためのセキュリティ技術の研究およびその製品化と普及に対する貢献」

4. 論文賞 (7件26名) [2016年度定時総会 (2016年6月) 表彰] [論文賞選定委員会 (2016年2月)]

(1) 情報処理学会論文賞

- ・大規模集計データへの差分プライバシーの適用 寺田 雅之、鈴木 亮平、山口 高康 (NTTドコモ)、本郷 節之 (北海道科学大)
- ・イラスト画像のスタイル識別子生成 栗山 繁 (豊橋技術科学大学)
- ・大規模軌跡データからの群パターン発見のための実用的アルゴリズム 耿 晓亮 (北大)、宇野 毅明 (NII)、有村 博紀 (北大)
- ・大規模OSS開発における不具合修正時間の短縮化を目的としたバグトリージ手法 柏 祐太郎、大平 雅雄 (和歌山大)、阿萬 裕久 (愛媛大)、亀井 靖高 (九大)

(2) Journal of Information Processing Outstanding Paper Award

- ・A Method for Navigating Cars in Multilevel Parking Facility Weihua Sun (Shiga University), Naoki Shibata, Masahiro Kenmotsu, Keiichi Yasumoto, Minoru Ito (Nara Institute of Science and Technology)
- ・Designing Overlay Networks for Handling Exhaust Data in a Distributed Topic-based Pub/Sub Architecture Ryohei Banno, Susumu Takeuchi, Michiharu Takemoto, Tetsuo Kawano, Takashi Kambayashi, Masato Matsuo (NTT)

(3) IPSJ Transactions on System LSI Design Methodology Outstanding Paper Award

- ・Courier: A Toolchain for Application Acceleration on Heterogeneous Platforms Takaaki Miyajima (Keio University), David Thomas (Imperial College London), Hideharu Amano (Keio University)

5. 喜安記念業績賞 (3件15名、\*: 代表貢献者) [2016年度定時総会 (2016年6月) 表彰] [喜安記念業績賞選定委員会 (2016年3月)]

- ・「消費電力性能に優れた独自メモリアプロセッサPEZY-SGとスーパーコンピュータの開発」 \*齊藤元章 (PEZY Computing)、木村耕行 (ExaScaler)、石井 敬、角田俊太郎、佐藤 篤 (PEZY Computing)
- ・「高スケーラブルデータベース統合基盤の開発と事業化」 \*土田正士、小寺 孝、河村信男、中野幸生、原 憲宏 (日立)

6. 長尾真記念特別賞 (4名) [2016年度定時総会 (2016年6月) 表彰] [長尾真記念特別賞選定委員会 (2016年3月)]

- ・ 鯉淵道純 (NII) 「ラックスケールコンピュータ・ネットワークの設計に関する先駆的な研究」
- ・ 内藤克浩 (愛知工大) 「ネットワーク技術を包括的に取り扱うクロスレイヤアプローチによる新たなモバイルネットワークシ
- ・ 肥後芳樹 (阪大) 「コードクローンに関する研究およびその技術移転・産学連携活動」
- ・ 藤原靖宏 (NTT) 「ビッグデータに対するデータマイニングの高速化に関する先駆的研究」

7. 山下記念研究賞 (53編) 第78回全国大会 (2016年3月) 表彰 [各領域委員会 (2015年7月)]

<コンピュータサイエンス領域>

- ・ 移動手段判定のための表現学習を用いたGPS軌跡からの特徴抽出 [データベースシステム] 遠藤結城 (NTT)
- ・ LZE++: 共有辞書を用いた圧縮データに対するランダムアクセスの高速化 [データベースシステム] 山室 健 (NTT)
- ・ 大規模OSS開発における不具合修正時間の短縮化を目的としたバグトリアージ手法 [ソフトウェア工学] 柏祐太郎 (日立)
- ・ Hadoopクラスタの動的構成変更による低電力化手法の提案 [システム・アーキテクチャ] 小野貴継 (九大)
- ・ ブルーム・フィルタを用いたメモリ・アクセス順序違反検出 [システム・アーキテクチャ] 倉田成己 (日立)
- ・ ブロックストレージとの組み合わせによるメモリストレージ容量拡張手法 [システムソフトウェアとオペレーティング・システム] 追川修一 (筑波大)
- ・ 3996トランジスタにおけるNBTI劣化の統計的ばらつき [システムとLSIの設計技術] 栗野皓光 (京大)
- ・ トポロジー可変な遅延モニタ回路を用いたトランジスタ毎の静的及び動的的特性ばらつきの評価 [システムLSI] Islam A.K.M.Mahfuzul (東大)
- ・ GPU間マイグレーションによる効率的な並列実行 [ハイパフォーマンスコンピューティング] 鈴木太郎 (東工大)
- ・ XscalableACC: OpenACCを用いたアクセラレータクラスタのためのPGAS言語XscalableMPの拡張 [ハイパフォーマンスコンピューティング] 中尾昌広 (理研)
- ・ Rubyにおけるライトバリアのないオブジェクトを考慮した世代別インクリメンタルGCの実装 [プログラミング] 笹田耕一 (セールスフォース・ドットコム)
- ・ (Total) Vector Domination for Graphs with Bounded Branchwidth [アルゴリズム] 石井利昌 (北大)
- ・ An exhaustive search and stability of sparse estimation for feature selection problem [数理モデル化と問題] 永田賢二 (東大)
- ・ 電力消費振る舞いのロジック・モデル検査 [組み込みシステム] 中島 震 (NII)

<情報環境領域>

- ・ 広帯域離散OFDM技術における適応変調制御方式の基本性能評価 [マルチメディア通信と分散処理] 新保宏之 (ATR)
- ・ P2P型センサデータストリーム配信システムにおける耐障害性向上のための複製ノード配置手法の検討 [マルチメディア通信と分散処理] 川上朋也 (奈良先端大)
- ・ データフロービジュアル言語を用いた情報可視化システムの開発環境 [ヒューマンコンピュータインタラクション] 伊藤隆朗 (筑波大)
- ・ 鏡面反射成分を持つ大域照明画像のノイズ除去フィルタリング及びアップサンプリング [グラフィクスとCAD] 徳吉雄介 (スクウェア・エニックス)
- ・ 線形ブレンドスキニングにおける補助骨の姿勢最適化 [グラフィクスとCAD] 向井智彦 (東海大)
- ・ 動物園におけるセンサーデータ活用に向けた飼育管理システムの開発 [情報システムと社会環境] 吉田信明 (ASTEM)
- ・ 近似直線を用いたダブル配列の圧縮法 [情報基礎とアクセス技術] 神田峻介 (徳島大)
- ・ 仮想物を残像として用いたMRマニュアルとそのオーサリングツール [グループウェアとネットワークサービス] 遠藤裕之 (数理計画)
- ・ 音声認識による認知症・発達障害スクリーニングは可能か? - 言語能力測定システム“言秤”の提案 - [グループウェアとネットワークサービス] 宮部真衣 (和歌山大)
- ・ Extracting Condition-Opinion Relations in Online Reviews [ドキュメントコミュニケーション] 中山祐輝 (東工大)
- ・ 3次元距離センサと無線LANを用いた屋内位置推定 [モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム] 伊藤誠悟 (豊田中研)
- ・ 桜センサ: 車載スマートフォンによる画像処理に基づいた桜景観の良い道路区間の抽出 [モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム] 玉井森彦 (ATR)
- ・ 差分プライバシー基準に基づく情報秘匿手法の一考察 [コンピュータセキュリティ] 寺田雅之 (NTT ドコモ)
- ・ RC4に対する平文回復攻撃の改良 [コンピュータセキュリティ] 大東俊博 (東海大)
- ・ セキュアブート+認証による車載制御システムの保護 [高度交通システムとスマートコミュニティ] 竹森敬祐 (KDDI研)
- ・ スマートフォンを用いた電気自動車およびハイブリッド車の接近検知手法 [ユビキタスコンピューティングシステム] 高木 雅 (東大)
- ・ 安定歩行区間に基づく歩行軌跡推定手法 [ユビキタスコンピューティングシステム] 梶 克彦 (愛知工大)
- ・ Android端末を利用した乳幼児見守りシステム [インターネットと運用技術] 齊藤 桂 (LASSIC)
- ・ 運用の効率化を目的としたネットワーク構成管理と自動設定の実現 [インターネットと運用技術] 近堂 徹 (広島大)
- ・ オンラインショッピング時の情報セキュリティ技術に関する安心感調査のための指標作成の検討 [セキュリティ心理学とトラスト] 西岡 大 (岩手県立大)
- ・ 車載カメラ俯瞰映像における立体物消失回避技術 [コンシューマデバイス&システム] 樋口晴彦 (日立)
- ・ 遠隔多人数会話のための発話音源定位分散の効果 [デジタルコンテンツクリエイション] 野口康人 (筑波大)

<メディア知能情報領域>

- ・意味と構造の構成演算と類似度学習における非線形性 [自然言語処理] 椿 真史(奈良先端大)
- ・コトDBに基づく非定型業務の協創支援システムの構築 [知能システム] 西村拓一(産総研)
- ・Modeling Spatiotemporal Correlations between Video Saliency and Gaze Dynamics [コンピュータビジョンとイメージメディア] 米谷 竜(東大)
- ・因果指標と偏正準相関分析 [コンピュータビジョンとイメージメディア] 原田達也(東大)
- ・コンピュータサイエンスフィールドガイドCSアンプラグドを活用した情報科学学習サイト [コンピュータと教育] 兼宗 進(大阪電通大)
- ・コンピューティングを基盤とした情報教育の再規定 [コンピュータと教育] 久野 靖(筑波大)
- ・二十一代集ソーラスのための漸近的語彙対応システムの開発 [人文科学とコンピュータ] 山元啓史(東工大)
- ・遷画:展示の数学モデルに基づく参加型アーカイブの分析とミュージアムでの展開 [人文科学とコンピュータ] 北本朝展(NII)
- ・潜在共通構造モデルに基づく音響信号間アライメント [音楽情報科学] 前澤 陽(ヤマハ)
- ・無矛盾性規準に基づく連続ウェブレット変換スペクトログラムへの位相推定法と高速化 [音楽情報科学] 中村友彦(東大)
- ・行列変量正規分布の混合モデルとその声質変換への応用 [音声言語情報処理] 齋藤大輔(東大)
- ・サプライチェーンにおける情報セキュリティの研究 [電子化知的財産・社会基盤] 久保知裕(昭和シエル)
- ・将棋名人のレーティングと棋譜分析 [ゲーム情報学] 山下 宏(フリーランス)
- ・平均文字は美しい [エンタテインメントコンピューティング] 中村聡史(明治大)
- ・マイクロタスク埋め込み型音楽ゲームの提案 [エンタテインメントコンピューティング] 三輪聡哉(明治大)
- ・Network Completion for Static Gene Expression Data [バイオ情報学] 仲嶋なつ(京大)
- ・大学連携における学生意識調査から得られた学生タイプに関する検討 [教育学習支援情報システム] 徳野淳子(福井県立大)

8. 大会優秀賞・大会奨励賞 [第78回全国大会(2016年3月)表彰] [第77回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞選定委員会]

(1) 大会優秀賞(10名)

- ・岩松洋介(NEC)
- ・大坪稔房(日立)
- ・大谷 真(湘南工科大)
- ・小川仁士(県立広島大)
- ・尾崎敬二(国際基督教大)
- ・小松佑人(日立/北陸先端大)
- ・張 建偉(筑波技術大)
- ・中澤 真(会津大短大部)
- ・浜中雅俊(京大)
- ・吉崎弘一(秋田大)

(2) 大会奨励賞(11名)

- ・新井誠也(芝浦工大)
- ・畝川みなみ(県立広島大)
- ・江間雄二(東京電機大)
- ・大木吉健(国際基督教大)
- ・上岡裕大(東北大)
- ・川畑裕也(筑波大)
- ・坂本真真人(工学院大)
- ・竹内智晴(三菱)
- ・坂東宜昭(京大)
- ・深沢知明(金沢工大)
- ・宮城優里(お茶女大)

9. 教育賞 [2016年度定時総会(2016年6月)表彰] [情報処理教育委員会(2016年3月)]

(1) 優秀教育賞(1件)

- ・石井一夫(農工大) 「農学系ゲノム科学領域における情報科学・統計科学教育の実践」

(2) 優秀教材賞(1件)

- ・寺元貴幸(津山高専) 「全国高等専門学校プログラミングコンテストにおける競技部門システム開発ならびに公開」

10. 若手奨励賞(14件) [当該コンテストにて表彰] [若手奨励賞選定委員会(2015年4月~2016年3月)]

<第21回スーパーコンピューティングコンテスト(2015年8月)>

- ・チーム gomaba 川崎 理玖、河原井 啓、原 季史(筑波大学付属駒場高)

<第26回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(2015年10月)課題部門>

- ・ホップ!ステップ!マップ! —小学校での安全活動支援システム— 虻川 みのり、渥美 亮祐、下中 直紀、鈴木 大輔、後藤 健太(東京高専)

<第26回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(2015年10月)自由部門>

- ・Smart AIS —海内の旗幟— 宇崎 裕太、瀬尾 敦生、肥田 琢弥、山本 愛奈、井上 香澄(弓削商船)

<第26回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(2015年10月)競技部門>

- ・プログラムが一晩でやってくれました 道上 和馬、日山 拓海、永田 大也(八戸高専)

<ETロボコン2015 プログラミング部門(2015年11月)>

- ・「NiASET」 草野 翔吾、居村 大輝、諸石 竜也、松本 翼(長崎総合科学大)

<パソコン甲子園2015 プログラミング部門 (2015年11月) >

- ・「Direct」 増田 隆宏、原 季史 (筑波大学附属駒場高)
- ・「Is」 伊佐 碩恭、井上 卓哉 (開成高)
- ・「thinkable」 松崎 照央、割地 琳也 (明石工業高専)

<パソコン甲子園2015 モバイル部門 (2015年11月) >

- ・「PATAPATA」 池内 太一、山岸 勇輝、江川 瑠香 (鈴鹿工業高専)

<第15回日本情報オリンピック (2016年3月) >

- ・増田 隆宏 (筑波大学附属駒場高) ・高谷 悠太 (開成高) ・坂部 圭哉 (海陽中)
- ・行方 光一 (大田区立大森第七中) ・吉田 拓人 (東京工業大学附属科学技術高)

11. 学会活動貢献賞／感謝状

[2016年度定時総会 (2016年6月) 表彰] [総務財務運営委員会 (2016年1月)]

- (1) 学会活動貢献賞：「学会誌における編集業務への貢献」 (1名)
  - ・五十嵐悠紀 (明大)
- (2) 学会活動貢献賞：「論文誌への査読貢献」 (3名)
  - ・市村 哲 (大妻女子大) ・安本慶一 (奈良先端大) ・宇田隆哉 (東京工科大)
- (3) 学会活動貢献賞：「デジタルプラクティスへの査読貢献」 (1名)
  - ・西 直樹 (NEC)
- (4) 学会活動貢献賞：「認定情報技術者制度創設への貢献」 (3名)
  - ・旭 寛治 (日立) ・芝田 晃 (三菱) ・西 直樹 (NEC)
- (5) 学会活動貢献賞：「大学情報入試全国模擬試験の開催に対する貢献」 (3名)
  - ・中野由章 (神戸市立科学技術高) ・植原啓介 (慶大) ・鈴木 貢 (島根大)
- (6) 学会活動貢献賞：「プログラミングコンテストSamurai Codingの運営への貢献」 (1名)
  - ・坂本一憲 (NII)
- (7) 感謝状 (3名)
  - ・故 喜安 善市 ・長尾 真 (京大) ・中島 秀之 (はこだて未来大)
- (8) 感謝状：「学会活動 (国際交流) への貢献」 (4団体) \*表彰 (贈呈) は全国大会
  - ・IEEE Computer Society ・China Computer Federation ・International Federation for Information Processing
  - ・Korean Institute of Information Scientists and Engineers
- (9) 感謝状：「論文誌編集業務への貢献」 (4名) \*表彰は論文誌編集委員会
  - ・堀山貴史 (埼玉大) ・今泉貴史 (千葉大) ・飯田 龍 (NICT) ・中山泰一 (電通大)

12. 支部関係

[各支部総会・支部連合大会等にて表彰] [各支部]

<北海道>

- (1) 研究奨励賞 (5名) ・伊藤匡志 ・熊木逸人 ・全 慶樹 ・古館裕大 ・堀口さくら
- (2) 学術研究賞 (2件) ・左文字響、渡邊真也 ・高田 圭、本庄将也、飯塚博幸、山本雅人
- (3) 技術研究賞 (2件) ・木下大輔、山本椋太、水丸和樹、吉村 斎、三上 剛、中村嘉彦、大西孝臣、稲川 清、阿部 司
- (4) ポスター賞 (4名) ・今野陽子、椋田健斗、川村秀憲、鈴木恵二
- (5) 工業高専奨励賞 (3名) ・阿部貴大 ・渋谷卓磨 ・野口 渉 ・峯後俊秀
- (6) 工業高専奨励賞 (3名) ・滝澤 蓮 ・高澤美菜 ・ヴォン ヴィラック

<東北>

- (1) 学生奨励賞 (14名) ・須藤若菜 ・狩野秀典 ・菊谷顕史 ・鈴木 凜 ・真壁大介 ・佐々木大雅 ・佐藤拓也
- (2) 奨励賞：5 名程度
- (3) 野口研究奨励賞：1 名程度

<東海>

- (1) 電気関係学会東海支部連合大会奨励賞他受賞者 (9名)
  - ・鈴木智也 ・佐々木康輔 ・山田穂高 ・染川 敦 ・田中秀明 ・寺澤友治朗 ・岡田浩平 ・内田雄基 ・朝倉菜理
- (2) 学生論文奨励賞 (8名)
  - ・足達 元 ・岩井 亮 ・上原悠永 ・奥村香保里 ・呉 偉 ・坂下卓弥 ・水上貴晶 ・村上航大

<北陸>

- (1) 優秀論文発表賞 (6名) ・ 範 雋偉 ・ 長嶺祐輔 ・ 坂井三四郎 ・ 唐澤貴大 ・ 小沼 遼
- (2) 優秀学生表彰 (12名) ・ 山森文生 ・ 笠川慎矢 ・ 出口風人 ・ 道廣大喜 ・ 田村正幸 ・ 阿部拓真
- ・ 竹谷謙吾 ・ 丸岡拓 ・ 篠崎世緒 ・ 山本淳史 ・ 島田有矢 ・ 澁谷和帆

<関西>

- (1) 学生奨励賞 (6名) ・ 榎田耕平 ・ 舩賀計彦 ・ 武政淳二 ・ 藤田 敦 ・ 守谷一希 ・ Chun Yin Chu

<中国>

- (1) 優秀論文発表賞 (2名) ・ 西 正博 ・ 國安哲郎
- (2) 奨励賞 (6名) ・ 田邊 寛 ・ 中田貴大 ・ 浅本紗希 ・ 見船文香 ・ 清水大樹 ・ 山崎加菜

<四国>

- (1) 学生奨励賞

<九州>

- (1) 奨励賞-連合大会 ・ 富田祐作 ・ 川東輝舟 ・ 坂本朋鴻 ・ 中林弘光 ・ 碓 圭介
- (2) 奨励賞-火の国シンポ ・ 上畑恭平 ・ 十楚 航 ・ 矢部嘉人 ・ 藤井 彬 ・ 門出顕宏
- (3) 奨励賞-若手の会 ・ 谷川郁太

13. 情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館

[第78回全国大会 (2016年3月) 認定] [歴史特別委員会]

- (1) 情報処理技術遺産 (10件) ※ ( ) 内は製造者、製造年
  - ・ 物理乱数発生装置群 (日立製作所、東芝、東京エレクトロン デバイス、他、1950年頃~2010年)
  - ・ KDC-1論理パッケージ (日立製作所、1960年)
  - ・ NEACシリーズ2200モデル500 論理パッケージ (日本電気、1965年)
  - ・ TOSBAC-1100D (東京芝浦電気 (現・東芝)、1966年)
  - ・ TTL論理回路カード (FACOM 230-60搭載) (富士通、1968年)
  - ・ DIPS4150形磁気ドラム記憶装置 (日本電信電話公社 (現・日本電信電話、日立製作所、1969年)
  - ・ HITAC 8800部品類 (日立製作所、1972年)
  - ・ 磁気バブルメモリ製品群およびBUBCOM80 (富士通、1978年~1989年)
  - ・ if800モデル30 (沖電気工業、1981年)
  - ・ HITAC S-810論理パッケージ (日立製作所、1983年)
- (2) 分散コンピュータ博物館 (1件)
  - ・ 情報・システム研究機構 統計数理研究所 計算機展示室

14. デジタルプラクティス論文賞 (1件1名)

[ソフトウェアジャパン2016 (2016年2月) 表彰] [デジタルプラクティス編集委員会]

- ・ 「データ分析と意思決定の狭間」とそれを埋める力 河本 薫 (大阪ガス)

15. ソフトウェアジャパンアワード (2名)

[ソフトウェアジャパン2016 (2016年2月) 表彰]

- ・ 自然言語処理技術の開発と公開 工藤 拓 (グーグル)
- ・ 情報技術とアートを融合した新たな表現の創出と国内外への展開 猪子寿之 (チームラボ)

16. FIT関連の各賞

[FIT2015 (2015年9月) 表彰] [FIT推進委員会]

- (1) FIT2015船井業績賞 (1名) ※船井情報科学振興財団主催
  - ・ William James Dally (スタンフォード大学教授/NVIDIA社)
- (2) FIT2015 船井ベストペーパー賞 (3件) ※船井情報科学振興財団主催
  - ・ 正モジュラ関数の最適化 石井利昌 (北大)、牧野和久 (京大)
  - ・ OpaqueLusion: 動的マスクを用いた多層空中像におけるオクルージョン表現 梶田 創、小泉直也、苗村 健 (東大)
  - ・ マルコフ的動的分散制約最適化問題への非厳密解法の適用 増田清貴、松井俊浩 (名工大)
- (3) FIT2015 論文賞 (2件)
  - ・ 採点ミス発見支援システムの開発: ~部分点と採点記号の認識を用いた採点ミス発見手法~ 西川雅清、松尾賢一 (奈良工業高専)
  - ・ ファイル格納位置制御によるHadoop MapReduceジョブの性能の向上 藤島永太、山口実靖 (工学院大)

(4) FIT2015 ヤングリサーチャー賞 (6名) ※FIT2016 (2016年9月) 表彰

- ・渡邊真由子 (NTT)
- ・福嶋貴幸 (愛媛大)
- ・八田俊之 (三菱)
- ・利根川凜 (北大)
- ・増田清貴 (名工大)
- ・末廣 学 (早大)

17. 情報規格調査会関連の表彰

- (1) 標準化功績賞 (2名) [情報規格調査会総会 (2015年5月) 表彰] [情報規格調査会]
- ・大蒔和仁 (東洋大)
  - ・中尾康二 (KDDI)
- (2) 標準化貢献賞 (9名) [情報規格調査会総会 (2015年5月) 表彰] [情報規格調査会]
- ・緒方日佐男 (日立オムロンターミナルソリューションズ)
  - ・小山清美 (日立)
  - ・数井君彦 (富士通研)
  - ・崎村夏彦 (野村総研)
  - ・鈴木俊宏 (日本オラクル)
  - ・鈴木俊哉 (広島大)
  - ・中野義彦 (JBMIA)
  - ・中山優紀 (日立ソリューションズ)
  - ・西孝啓 (パナソニック)
- (3) 国際規格開発賞 (33名: 34件) [情報規格調査会 技術委員会 表彰] [情報規格調査会]
- ・青木秀一 (NHK・2件)
  - ・畔津布岐 (JIPDEC)
  - ・安達辰巳 (NEC)
  - ・池田宏明 (千葉大)
  - ・石川孝明 (早稲田大)
  - ・入江満 (大阪産業大)
  - ・岩元浩太 (NEC)
  - ・上畑正和 (日本データ通信協会)
  - ・宇都宮康夫 (エスアイリサーチ・江崎和博 (法政大))
  - ・岡崎靖子 (日本IBM)
  - ・岡部雅夫 (東北工大)
  - ・緒方日佐男 (日立オムロンターミナルソリューションズ)
  - ・岸知二 (早稲田大)
  - ・塩谷和範
  - ・新谷勝利 (IPA)
  - ・菅谷寿鴻 (電通大)
  - ・鈴木輝彦 (ソニー・4件)
  - ・高井利憲 (奈良先端大)
  - ・高井弘光 (デンソーウェーブ・2件)
  - ・高田治 (日立)
  - ・高橋光裕 (IPA)
  - ・谷津行穂 (元シンフォーム)
  - ・辻本有伺 (デンソーウェーブ)
  - ・中尾康二 (KDDI)
  - ・中島毅 (芝浦工大)
  - ・浜壮一 (富士通研)
  - ・福原隆浩 (拓殖大)
  - ・星沢拓 (日立)
  - ・堀内一
  - ・藪田和夫
  - ・山崎哲 (工学院大)
  - ・山田朝彦 (産総研)
- (4) 工業標準化事業表彰 [工業標準化表彰式 (2015年10月) 表彰] [経済産業省]
- ・工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰: 浅井光太郎 (三菱)
  - ・工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰: 大蒔和仁 (東洋大)
  - ・国際標準化貢献者表彰 (産業技術環境局長表彰): 金子格 (東京工芸大)
  - ・国際標準化貢献者表彰 (産業技術環境局長表彰): 伏見諭 (JISA)

---

---

## その他および附属明細書（法定記載事項）

---

---

1. その他、内部統制の整備についての決議に該当はありません。
2. その他、事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以上